

連城叢書

四卷

特別
14
696
140





696
140

— — — — —

寬文十三年 丹後國中覺書
 後藤細工口傳書
 新編 白菊
 毬歌國字解

小字解
 至日水文序

愛文拾之世年三月三日

丹後國津路之覺書帳

此書揚子野田氏之藏丹後宮津實文九年
以永井上守近大夫高延因信康子尚長延寶
九年若城十其乃郎之受也實之珍書

丹後國知公之支

一 高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
此乃村

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

高長孫高延子高長孫高長孫高長孫高長孫
高長孫

一高之... 右... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

内 七... 村...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

内 或... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

内 或... 村... 界... 与... 村... 界...

高... 村... 界... 与... 村... 界...

高... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

一高之... 村... 界... 与... 村... 界...

外 夫... 村... 界... 与... 村... 界...

夫... 村... 界... 与... 村... 界...

一 米四斗字百九拾之百三十四年之公 亦年也

一 米字之百九拾之百三十四年之公 亦年也

但此種地字亦...

米八斗七拾之百三十四年之公

天字八百七拾之百三十四年之公

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

一 米四斗字百九拾之百三十四年之公

此種地字亦...

此種地字亦...

一 米四斗字百九拾之百三十四年之公

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

此種地字亦...

一 米四斗字百九拾之百三十四年之公

此種地字亦...

一
米武吉在榜尾居三十七年
米八公在榜尾居三十七年
米六在榜尾居三十七年
米五在榜尾居三十七年
米四在榜尾居三十七年
米三在榜尾居三十七年

与依部力
丹依部力
竹依部力
德依部力
如依部力
開定刑

米武吉在榜尾居三十七年
米八公在榜尾居三十七年
米六在榜尾居三十七年
米五在榜尾居三十七年
米四在榜尾居三十七年
米三在榜尾居三十七年

与依部力
丹依部力
竹依部力
德依部力
如依部力

一
米五在榜尾居三十七年

開見兒
德依部力

米五在榜尾居三十七年
米四在榜尾居三十七年
米三在榜尾居三十七年
米二在榜尾居三十七年
米一在榜尾居三十七年

丹依部力
竹依部力
德依部力
如依部力
山子新官上

米七在榜尾居三十七年
米六在榜尾居三十七年
米五在榜尾居三十七年
米四在榜尾居三十七年
米三在榜尾居三十七年

与依部力
丹依部力
竹依部力
德依部力
如依部力

一 米三石七斗

薪札代米

一 米四石

炭統運上松三電

此米冬在四石宛

一 米拾石

与依部力

一 米四石

母依部力

一 米或拾石

尾中部力

一 米三石八斗

浦役あしの塩糶

此米

一 米四石

与依部力

一 米三石

竹中部力

一 米拾石

木山使海橋五段運上

此米

一 米九石

与依部力 地村世吉村

一 米或拾石

尾中部力 市世吉村

一 米七石五斗

普運上

一 米或拾石

与依部力

一 米或拾石

御子五石五分 運上

一 米或拾石

竹中部力

一 米或拾石

鍾五石五分 運上

一 米或拾石

尾中部力

一 銀四百五十文

越守上 与依部力 与依部力

二年三月

一 銀百五十圓拾目

五ノ部付の渡代
年々あつた

銀拾五圓七拾七リ

年々あつた

以米式百拾五圓八拾七リ

中取手並部付上取手

米百四十圓拾五圓七拾七リ

銀百六十拾五圓三拾七リ

金百七十拾五圓三拾七リ

銀百七十拾五圓三拾七リ

先代官津町主の借書

公儀上上六年前上取手

一 米百七十圓拾五圓七拾七リ

以銀百八十拾五圓七拾七リ

他國米百八十拾五圓七拾七リ

一 米百六十圓

以銀拾五圓七拾七リ

以銀拾五圓七拾七リ

一 銀百五十圓拾目

銀百五十圓拾目

以銀拾五圓七拾七リ

銀拾五圓七拾七リ

銀百七十拾五圓三拾七リ

銀百七十拾五圓三拾七リ

銀百七十拾五圓三拾七リ

銀百七十拾五圓三拾七リ

酉年上
戌年上

一 家數八百
宮津山家數
内務省
中校

百拾五
内務省
中校

百拾四
内務省
中校

百拾三
内務省
中校

百拾二
内務省
中校

百拾一
内務省
中校

百拾
内務省
中校

百拾九
内務省
中校

百拾八
内務省
中校

百拾七
内務省
中校

百拾六
内務省
中校

百拾五
内務省
中校

百拾四
内務省
中校

百拾三
内務省
中校

百拾二
内務省
中校

百拾一
内務省
中校

百拾
内務省
中校

百拾九
内務省
中校

一 家數八百
宮津山家數
内務省
中校

百拾五
内務省
中校

百拾四
内務省
中校

百拾三
内務省
中校

百拾二
内務省
中校

百拾一
内務省
中校

百拾
内務省
中校

百拾九
内務省
中校

百拾八
内務省
中校

百拾七
内務省
中校

百拾六
内務省
中校

百拾五
内務省
中校

百拾四
内務省
中校

百拾三
内務省
中校

百拾二
内務省
中校

百拾一
内務省
中校

百拾
内務省
中校

百拾九
内務省
中校

出り子

本家五子二百四十人

月本家百五十五人

本家百五十五人

月本家九拾三人

三子百拾四人

月本家四拾五人

五子百四拾四人

月本家四拾四人

四子百五拾五人

月本家七拾五人

三子百拾七人

月本家拾八人

福刺家

本家八拾七人

洋海家

本家四拾五人

時古宗

本家拾八人

法能宗

本家拾五人

直言宗

本家四拾五人

和歌宗

本家拾五人

邦人

天台宗

宮澤町

本家

本家四子百七拾八人

右宮寛文九年奉修河内志長公家修史

宮澤町

本家

本家五拾伍拾人

如

本家

宮澤町

伊波 伊波
 一 年更村 大と海嶺に新大
 一 伊波村 大と海嶺に新大
 一 大島村 海嶺に
 一 新島村 海嶺に
 一 泊村 海嶺に
 一 仲野村 海嶺に
 一 其野村 海嶺に
 一 中島村 海嶺に
 一 北島村 海嶺に
 一 此島村 海嶺に
 一 三島村 海嶺に

一 三島村 海嶺に
 一 延利村 海嶺に
 一 奥大島村 海嶺に
 一 常島村 海嶺に
 一 桑島村 海嶺に
 一 新島村 海嶺に
 一 久留村 海嶺に
 一 佐野村 海嶺に
 一 竹島村 海嶺に
 一 之村 海嶺に

一 在儀村 右のり

一 柏倉村 杉本(氏)まきし

一 三谷村 宗をきき 松杉大竹のり

一 馬倉村 磯山(氏)まきし

一 久米河 海濱村

一 深村 海濱村(氏)まきし 磯山(氏)まきし 磯山(氏)まきし

加賀米(氏)まきし

一 佛性村 志(氏)まきし

一 毛倉村 右のり

一 山倉村 右のり 大村(氏)まきし

一 小倉村 右のり 磯山(氏)まきし

一 天宮村 大村(氏)まきし 浪持(氏)まきし

一 河原村 磯山(氏)まきし 浪持(氏)まきし 浪持(氏)まきし

一 波倉村 麻(氏)まきし

一 公倉村 麻(氏)まきし

一 柏倉村 浪持(氏)まきし

一 其倉村 麻(氏)まきし

一 小倉村 浪持(氏)まきし

宮津領東内南北の法(氏)まきし

一 宇津村 東内(氏)まきし 浪持(氏)まきし

一 以倉村 東内(氏)まきし 浪持(氏)まきし

東内(氏)まきし

一 三倉村 南 丹波(氏)まきし

一 以倉村 北 丹波(氏)まきし

丹波(氏)まきし

八七

宮津の所より道迄の支

一 本山

四里半

一 田

六里

乐波九里

一 丹波

福和山

八里

老五

拾五里

一 但馬

山

九里

一 若狭

小濱

拾五里

乐波廿里

一 京

都

廿八里

一 大津

小濱

海

路三里半

一 但馬

山

海

上廿里

小濱

一 大坂

島

日

量

入

一 大坂

島

二

拾五里

一 作 年之棠 中 行 支

如 あり

武 子 所

竹 葉 部 為 中 行 所 備 村

武 子 所

竹 葉 部 為 經 手 備 大 備

石 葉 部

竹 葉 部 為 經 手 備 大 備

一 大津

山

大

津

大 津

一 大津

山

大

津

大 津

一 大津

山

大

津

大 津

一 大津

山

大

津

大 津

出 官 官 持 方 并 日 限 支

一 米... 给人拾... 出... 拾方

一 米... 但... 自... 拾... 月... 初... 最... 次... 弟...

一 米... 大小... 拾... 是... 拾... 方... 并... 日... 用... 限... 年...

一 米... 但... 拾... 人... 自... 拾... 方... 并... 切... 并... 九... 日... 前... 年...

一 米... 但... 拾... 人... 拾... 方... 并... 小... 者... 日... 司... 银... 拾... 是... 入... 利...

一 江... 小... 普... 拾... 人... 拾... 方... 并... 小... 者... 日... 司... 银... 拾... 是... 入... 利...

一 江... 小... 普... 拾... 人... 拾... 方... 并... 小... 者... 日... 司... 银... 拾... 是... 入... 利...

给... 人... 年... 借... 金... 银... 三... 年...

山... 而... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

自... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

成... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

子... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

成... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

成... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

世... 普... 借... 拾... 世... 三... 元...

張成晉八拾之銀八拾五元
全之十子銀五元全 他處之五拾五元

加并九年之借銀五元

銀九元八拾五元
銀七元五拾五元
銀八元四拾五元
銀八元五拾五元
銀五元五拾五元
銀五元五拾五元
銀五元五拾五元
銀五元五拾五元

張金三十四拾五元
全之十子銀五元全
他處之五拾五元

玉依身操元借銀五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元
銀七元五拾五元

給子并人收五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元
高之五子四拾五元

大正七年三月
高松藩子武蔵守

一 米 五斗 四拾五石 五斗

一 銀 四拾五石 五斗

一 米 四斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

一 米 五斗 四拾五石

延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石

中
佛
延平
延平
延平
延平
延平
延平
延平
延平

延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石
延平三松石

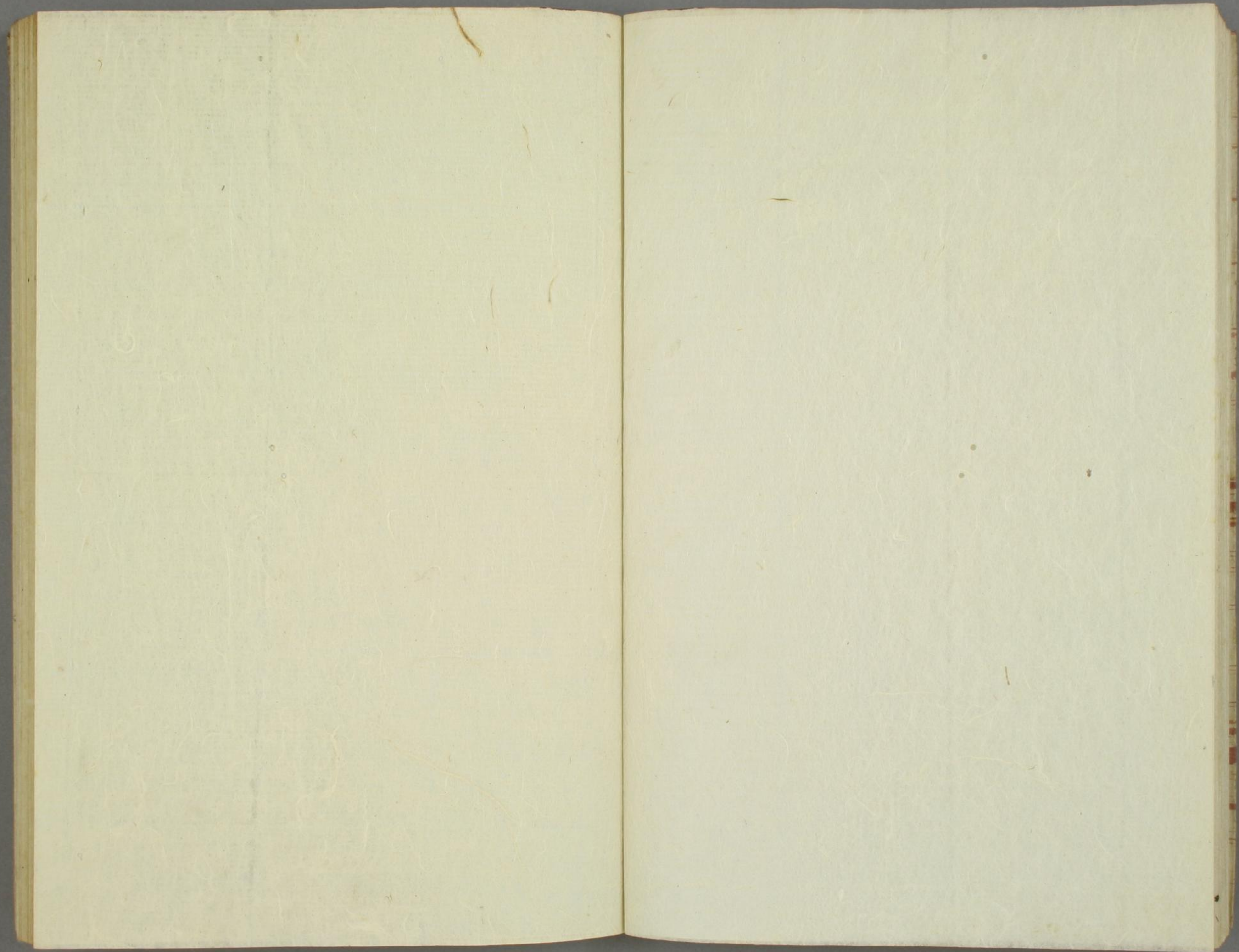
日
中
井
延平
延平
延平
延平
延平
延平
延平

寺傳近道寺教
 一 新淨寺 一 佛性寺 一 由西寺 一 經王寺
 一 法法寺 一 妙照寺 一 大正寺 一 西方寺
 一 法王寺 一 法王寺 一 法王寺 一 法王寺
 一 法王寺 一 法王寺 一 法王寺 一 法王寺

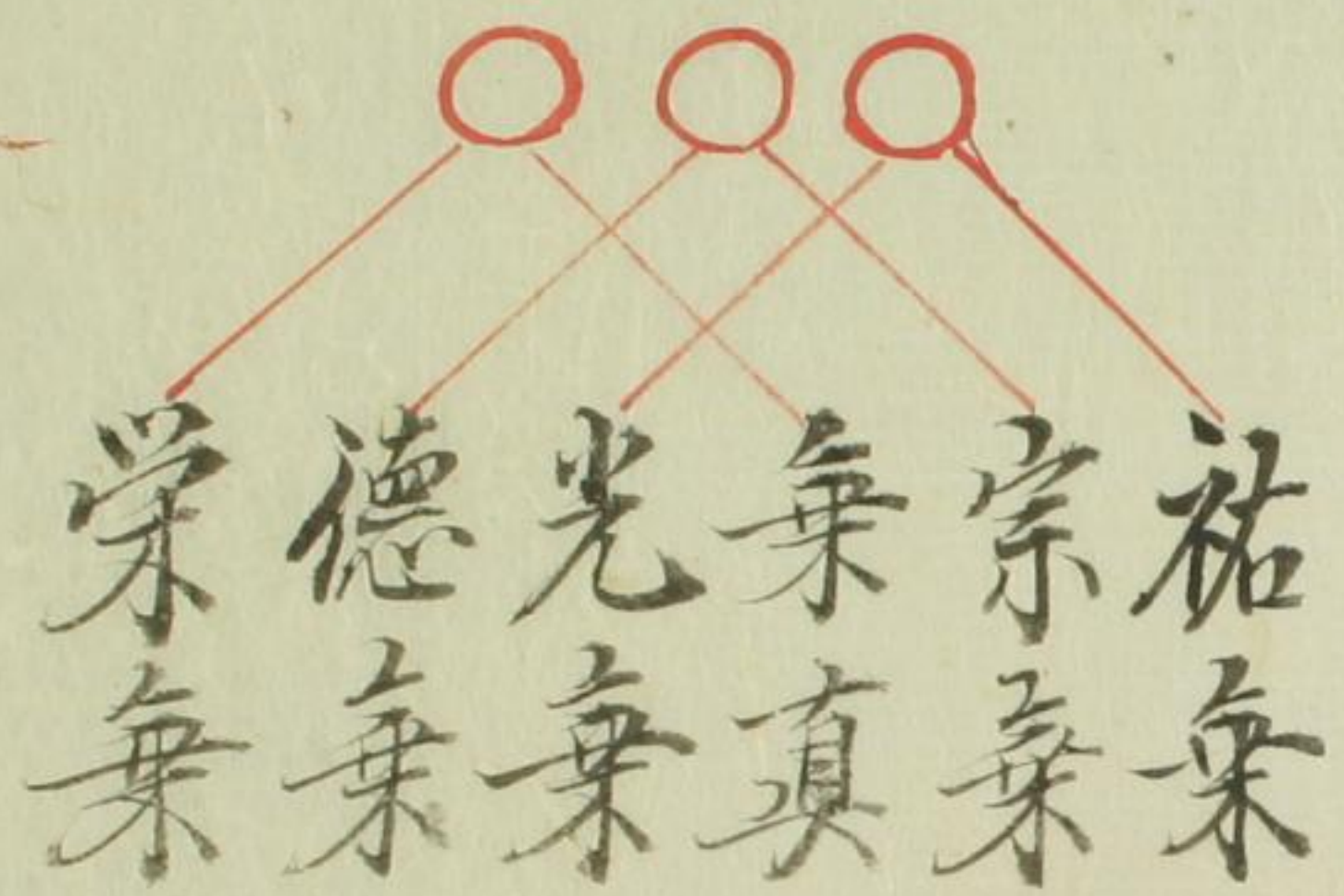
田島石代寺
 一 石代寺 一 石代寺 一 石代寺 一 石代寺
 一 上田寺 一 上田寺 一 上田寺 一 上田寺
 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺
 一 下田寺 一 下田寺 一 下田寺 一 下田寺
 一 上高寺 一 上高寺 一 上高寺 一 上高寺

一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺
 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺
 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺 一 中田寺

石原大場
 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場
 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場
 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場 一 石原大場



六代之系



程

○ 祐乘

- 七子細カニ而見事也ツツノ頭立子堅言リ不カニ見ルハ子有
- 耳カキニ切込ミアリ
- 葎手少ク
- 柄竿ノ裏ニ肉ナリ板ノ如シ
- 祐乘鑑之支



柄竿共裏組鑑也



此角丸ノ耳カキモサク

- 葎子木爪之上ノ肉中通在ル様ニ

- 一 柄并七子地深ッ肉垂ク板ノ如シ
- 一 柄ノ小尻丸ミアリ
- 一 裏ク、ミノ鑪玉ナク
- 一 目貫柄竿共ユフリニラキニヤナリ
- 一 是一代計木尻右ハシラモ左エニテモ方ニ有若クハナキモ自然アリ
- 一 此時代人物有シ凡イタニ 雷 布袋ノ様ノ類ノ物計ナリ
- 一 此時代 一原ト言者有萬夏祐兼カト見ハ也

○宗兼

- 一 七子地丸ノ浅シ
- 一 柄竿裏惣様ニ丸シ
- 一 柄竿耳カキ喜ヨリニシハ右ハユカニ有是一代計也

- 一 自然祐兼ノ様ニ耳カキニ切込有イニアリ
- 一 七子祐兼ヨリ少クアラフク
- 一 柄ノ小尻丸ミ多クアリ



ケ様ニ小尻ニ肉有リ此作計ナリ外作ニ肉ナク
 目貫柄竿凡ニ祐兼ヨリ大振也草花ニ而モ諸生物ヲモ
 下カノ上カノ高下餘リニツツ而フドウ成故ヒツツト而
 キテイタニ而祐兼ナクナリイヤシクニユルナリ



此ノ角ニ丸ミアリ

○柔真

- 柄竿ノ裏丸ノ中ニ通ニシノ豆コ、ロ、合
- 目貫柄竿ノ宗糸ヨリ大キリ
- 七子地宗糸ヨリ深ク肉多クアリ
- 七子地宗糸ヨリサカク七子ツヨクシテ是変也
- 目貫柄竿ノ置物大キニ而モヨウ子ノ上カヒ下カヒノ高下多ク諸変アリ惣テ言ウノサカイ、タカ子深ク也
- 自然生物ニ移多ク物アリ
- 此時代ニ山ノ影、言物アリ、柔真カト見ル



此用ニ憶ニカト在リ外ノ作ヨリ耳カキモ大キリ

○光柔

- 是ヨリ末ハ目貫ノ有真大キリ也
- 七子ユエカニシテウツクニク
- 七子地深ク柔有真同シ七子地地糸ヨリ老ニ肉有
- 筋ヨリ筋糸ヨリサシ産ク
- 耳カキノクリ極ナリカツウ柔真下同シ変少クアリ也
- 柄竿ノ裏結糸ヨリ老ニ肉アリ
- 此時代ヨリ人形物多ク出ス
- 自然生物ニ数多ク物アリ
- 此時代ニシテ後藤ト言フ者有竿ノサヲ細ク、目貫ナカ也
- 柄ノ小ニ、尾ナリ
- 柄竿ノ裏ニソキツキ自然アリ

○德象

- 七子宗象ノリコトカ
- 七子地宗象ノ様ニ浅キコト
- 七子地肉合モ宗象ト同変
- 象ノ耳カキ諸事又光象ト同事
- 壺笠此時代ヨリ多ク出来能ハ稀也
- 諸事メラ物此時代ヨリ末
- 柄竿ノ象肉合モ宗象ト同変
- 柄竿ノ象ツギ自然アリ
- 柄ノ小尻丸キ心

○榮象

- 七子半月也丸キモ自然アリ



如此ニ堅ニ各脚込ニナリ

- 七子地ノ深サ肉合モ象有ト同事
- 柄竿ノウラ徳象ニ丸キコト又丸キ多キモアリ
- 此時代ヨリ末ハ柄ノ小尻ロツメ也
- 蕨ノ手木凡ノ上ニ肉ヤナシ是一代計也
- 裏ツクハコノ鑑ノ事



如此ニトニテリナク一筋宛ツキ丸鑑ノナキ加減モ大形ヲ様ニ柄ノ角ヨリ角ハ

- 柄竿ノ裏ノヤスリニ五ナシ
- 裏ツクハコノヤスリニ五ナシ
- 竿ノ耳カキ諸事又光象ト同変
- 此時代ヨリ武者多ク出来

一宗兼 兼真 光兼 是三代ハ柄并ノ兼ノミノ鑑ノ上ニ
豎筋在リ又トモモアリ



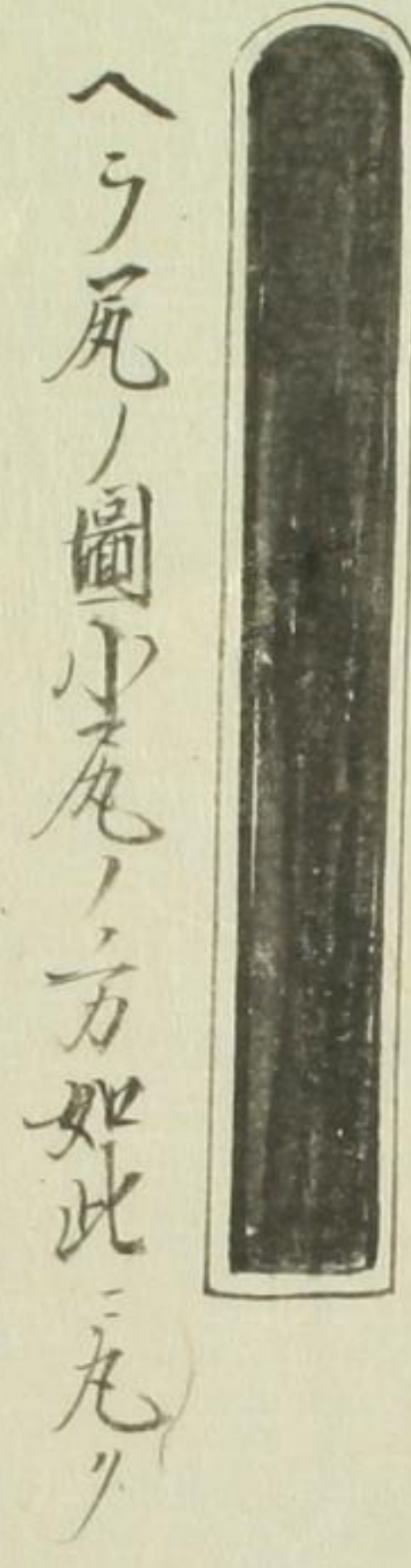
一宗兼 兼真 光兼 德兼 此四代兼ノ鑑大形同前也



一ハリ金上代物ニモ在リナリ右筋兼ニモ自然アリ

一兼拔宗兼 兼真ヨリ以來自然アリ 光兼
德兼ノ時代ヨリタタシ

一ハラ尻光兼ニモ自然在リ德兼ヨリ以來自然



ハラ尻ノ圖小尻ノ方如此ニ丸ク

一光兼 德兼ノ時代ニ右ノ蓋金ノ部トト同人此作者
必縁金ニスル大形置物ニ桐ヲ部ル也桐ノ間ニ兼
ナトモ自然アリ赤銅能セ子細カニシテ見事ニ
出来候得光兼カ德兼ニ穴丸ル有柄必小ナ
リハラ尻モ同也

一 箏 箏手ノ善悪之度

如此曲過キヨハクセイナリ而悪シ

如此ニ卷留リセイ無シテ悪シ

此又ニワクラミタキ故セイ無リ

如此ニ曲過モセズ又曲リスクナリモ無クセイ有テ
ツヨク是工是度而ヨシ

此又ニワクラミナリスク成故ツヨクセイ有テ
此間廣キハ悪シ又大キモセキモ悪シ

此間狭ノ外セリ見ルハ悪シ細ハ箏手ノ留リ
箏手ノ恰好アリ故セリ合ルナリ

○ 惣テ箏手ニ象眼アルハワヒテヤシ大キメナリ少サク難成物之
併様乘ハ毛彫ノ下因又ニ少サクナル也外ノ作ニモ少キモ自
然アリ上ノ士口



象眼之圖

- 一 物而未凡箏手ノ上ニ肉キハ悪シ併様乘ニ代者肉無キ心
- 一 惣而箏ノ細キハ悪シ象眼キ無也
- 一 箏ノハハ肉合ノ吉



箏ノ裏ヲ見テ耳カキトテ有間
如此ニ細キカキヤシヤニ見ヘ而吉

此又ニハ能ノモ悪キノモ同又
ナレ是又是ヨリ未ガフトリ箏ノ
サキモク様ニ自然ニ細クニ吉

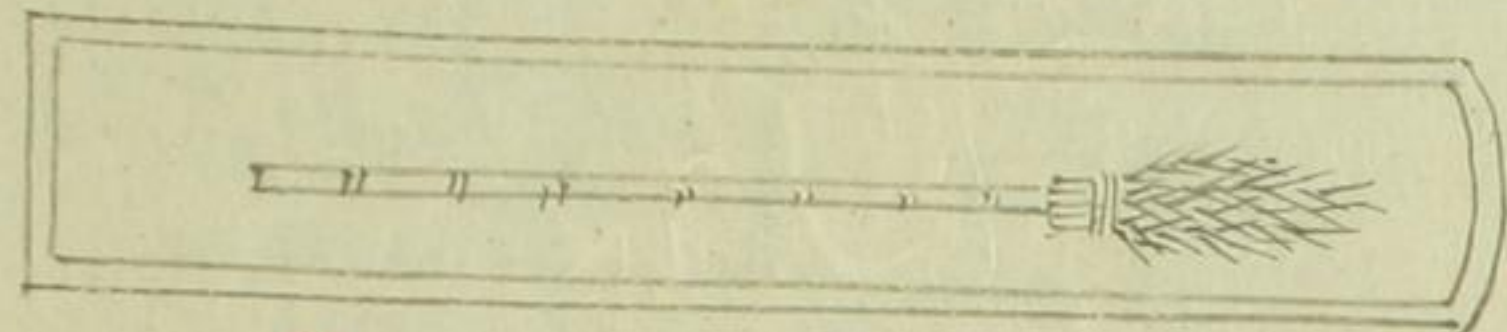
竿ノ裏ヲ見テ耳カキト
肩ノ間ヲ稱シラトノ候得ハ
鄙シク下ウニ見テ悪シ家ニ毎

是迄ハ能モノ悪キノモ
不ト同ク又ナレ是ヨリ下
細クノ悪竿ノ先モ急ニ
細キ故悪キナリ



一柄竿ノ地家ニ者水地下七子地ヨリ外ノ夏毎
一曰貫柄竿トモ家ニ赤銅ノ悪敷モノナリ
一物テ竿ノ耳ノアツキハ悪シ家ニ夏夏也柄モ同夏
一物而家ニ柄竿ノ縁毎キト云夏毎
一家ニス銅スシフイ子ス銀スシニ子ウノ彫物ハ目貫
柄竿ノ土臺ニモ毎キナリ丸繪様アイシウイナトニハ
銀ハ也柄竿ノ置物地取釣合ノ事

如此ニ置物又方ヘヨリタル大キニアシ又真中通ニ在ルモ悪シ
作去及ノ方ヘヨリタルヨリハシカ家ニ毎キナリ
置物柄竿長クノ真中柄竿ノ先ヘヨリタルモ悪シ



○如此ニム子ノ方ヘヨリ置物在カキト
○如此ニ置物小尻ノ方ヘヨリタルカキ
○何シニモ一級類真中在カキ生物ニモ一匹物
餘ノ長クノナキ類物柄竿ノ長クノ真中ニ在キ
小尻ノ方ヘヨリタルモ不苦ハノ地取ハム子ノ方ヘ
少シヨリタルカキ

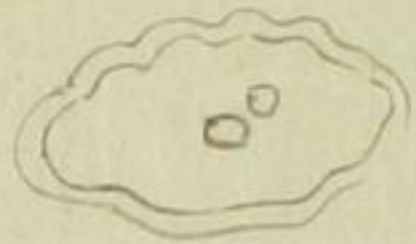
○右之ヨリ各違候ハ地取釣合ニ悪敷見テ此繪圖ノ
様成細長キ置物ノ類ハ別而地取釣合ニ而目利仕也

○代之日貫之衰之夏

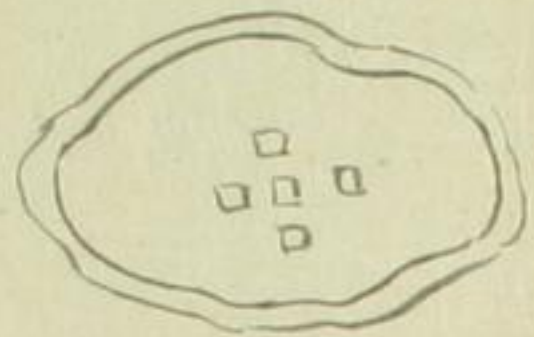
祐象

宗象 祐象ノ様成真ノ付カ子モ在

○象真付カ子是迄ハ在モ有モ在モ在モ不定



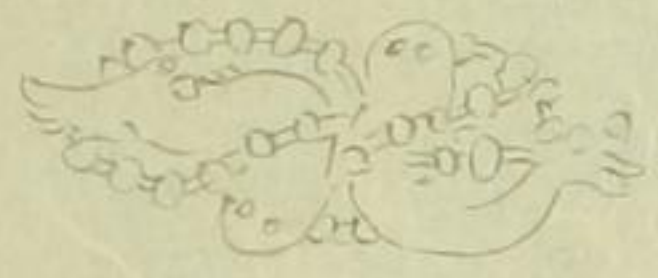
○光象是ヨリ未ハ同夏



○真ノ根ノ付カ子日貫ニハ益モ在又在ハモ有リ不定
赤銅ノ日貫ニハ大形在在ノ至象真迄ハ赤銅ニモ
益モ自然在リ祐象宗象ニハ大形ナシ

○日貫大キサ

六代ノ内ニ大キナルガ此繪圖程ナリ此圖ノ
見分ヨリ大キナルハ本ナリ生物ニ五匹或七匹
ナド数多キ物アリ大キサ是ハ各別也



○目母及胎好ノ善惡ヲ手申スニ上ノ及ノ善惡ニモ又



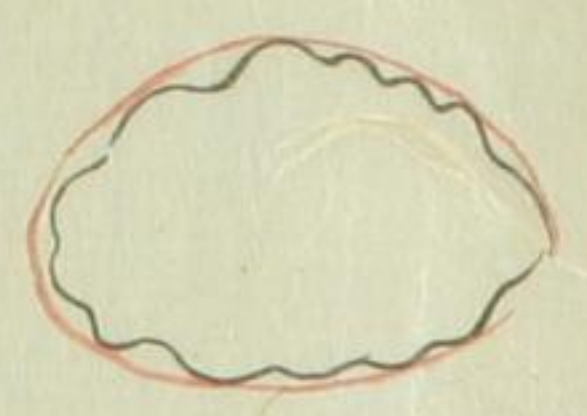
ケ様ニ兩ノ脇廣ク申ニ細クワケ成モ思ヒ



ケ様ニ一方ハフツク一方ハ大キニ細キ思ヒ也



ケ様ニ下モ上ハソリタル大キニ思ヒ

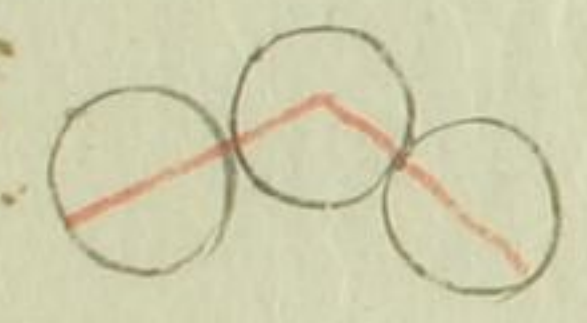
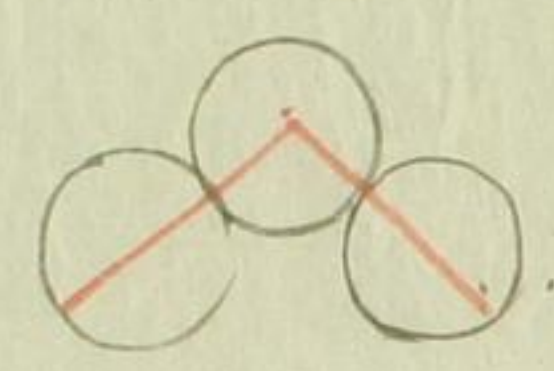


如此ニフ子ニ種々ノ繪様有テ叔物惣様
玉子也上ノ士ロシ家物ハ如此也

○三ツ并之目母

善惡之見様口傳

祐彙

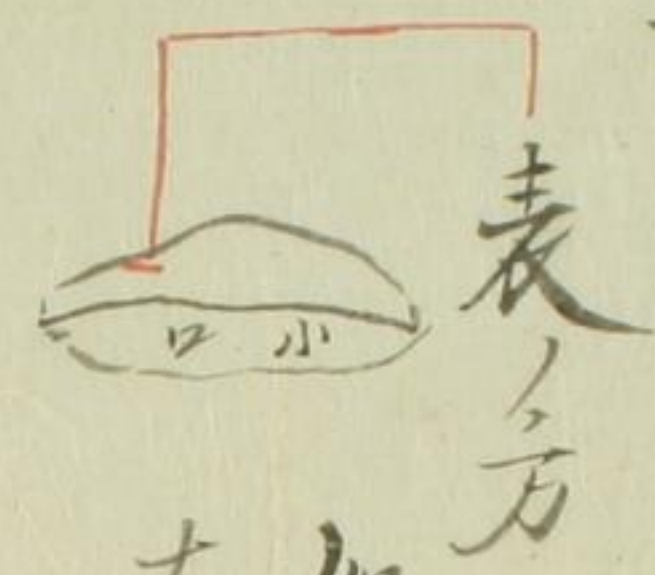


宗彙ヨリ末

一目貫スルノ事

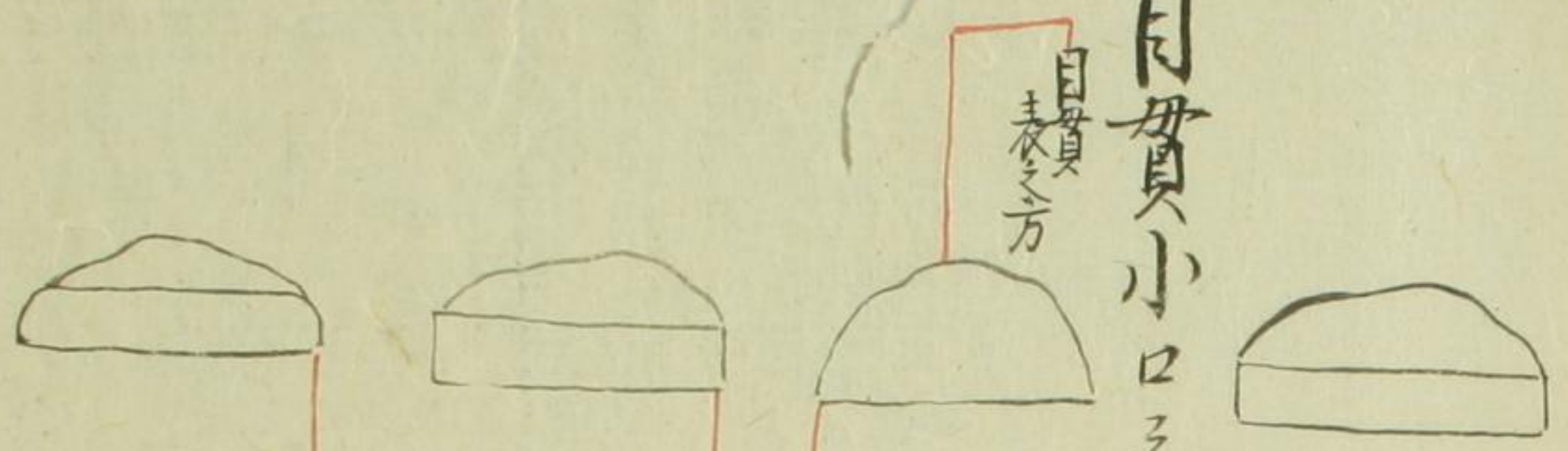
繪様ノ真中スルニ在間敷所ヲスカシ或ハ端ニテモ
 殊ニ山ニスカシ在ハ猶以テ惣一目貫ノ端ニスカシ候得テ
 不斜處ニカシスカシ先ノ石若是サ、家ニハ女モ有
 不定籠テハ彫物ハ各別ナリ

一目貫ノ小口厚ミ之度



如此ニ小口アツキ所モ有又大キニウスキ所モ
 在ラソ口ハ又ハアシ家ニモナリ

一目貫小口之善悪



如此ニ何方モソ口井候ガナリ

如此ニ小口ノスソハリナレ大キニアシ家ニナキナリ

又如此ニスツバリニ無クスソエテリ先トテモ
 肉ナク板ナキハ様成モ悪シ家ニモナリ

如此スソエテリ肉在ガナリ

一目貫之表ノタカ子ノ度

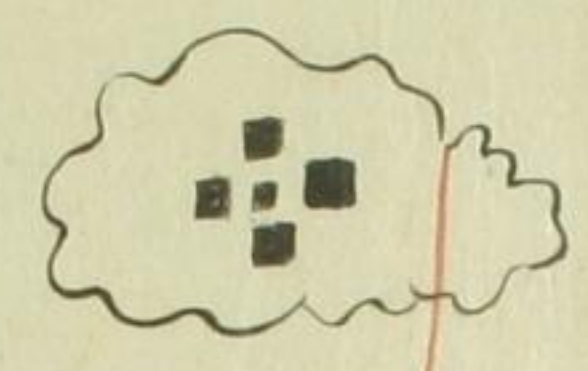
一目貫表表ノ繪様ニヨツテ表ニ高下有表ノ高下所ニ錯ノ跡
在ルハ大キニ思ヒ表ニ毎キナリクホキ所ニ錯ノ跡アル位也

一目貫を切レ之度

是ハ一目貫ノ如ク自然切ル所有切様ニ吾思在思ニ切ハ
鋸刀小刀ナドニ毎理ニ引切タル様ナリ能キ切レハ物ニスレ
自然ト切タル様ナリ



思敷切ハ切レ口一方ハトク今一方ハ急ニ
細キ故ニ毎理ニ切レタル様ニ見ヘテ大キニ
思ヒ



能キ切レハ切レ口両方トモニ細クテ子ニ
キレル故ニ誠ニ物ニスレテ自然ニ切レタルヤウ也
少シノキレハ切レタルヤウニハ見ヘサルナリ

一目貫ノ表タシノ古又

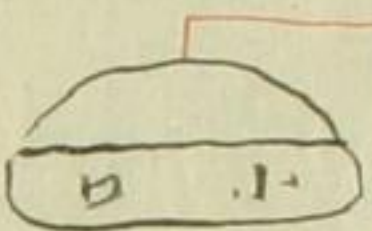


ケ様ニタシ大キニソトキ思モ在又大キニ
違テ細キカモ思ヒ
如此ニ切レキサキ在ル所内ハ直成モ思ヒ
家ニ毎キナリ



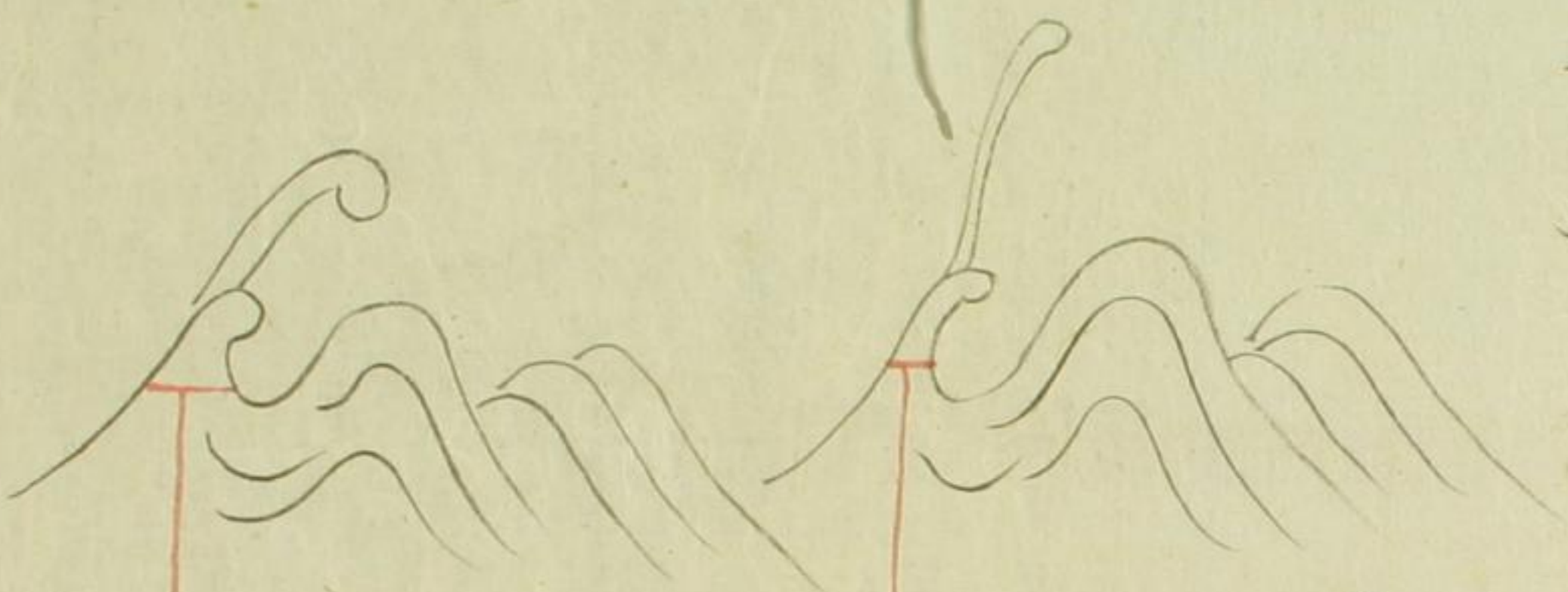
ケ様・フトミ能ク揃タレカ吉ク外トノ出張
割在ル外ノ摺ニ内モ割タレカヨシ併上
内ハ能揃ヒ得共外ノ出候所ヨリ
内へ引込タレテ細キコトハ也餘能
揃候得ハ細ユヲモキ故

一月貫上之肉合



如此ニ月貫上ノ真中ニ高ク四方ノ端ニ
下リタレ肉合言ヒ四方ノ端ニ下真中ノ高サ
同方成クハ中ヨリ四方ノ端ニ下リハ大ニ
要シ

一水之夏



上ニ代ノ水ハ如此ニハケシク浪頭モ上ハ
ミフガリ此所代ニハ町郎モハケシク郎ハ

如此ニ夏ソ細キガヨシ

如此ニ此所中廣キハアコ



又カシ光棄ヨリ後ニ多ク
 菊流ノ時ハ必此水ナリ故ニ上代物結棄ニモアリ

如此ニフキワニ横ニ在ル水不苦又方ノ
 カタニハ残ラズ在ル等ナリム子ノ方ニモ自然
 ナリハ在リ



光棄ヨリ末ノ水ハ如此ニセイ又ルク

此水ハ上代物ニモ在ル末ノ物ニ多ク
 又シカラズノ時ハ必此水ナリ故ニ上代物
 ニモ在リ



如此ニ分子不知水ハ家ニ毎キナリ



土佐水窓ニ未ノ物ナリ

○家ニ銀ノ水在リ上代物ニモアリ
○浪頭計リ録ノ未ノ物ナリ上代物ニモ毎真ニ自然アリ祐兼
宗兼ニハ稀也

一草木之葉之夏



如此ニ葉筋サキノ留リ葉先キヨリ前ニテ
引拾ルヤリニ自然ニ細ク在リ吉
小筋モ如此ニ大筋ト向アキニカキ



如此ニ筋ノトマリフトリ或ハ急ニ留リ窓ニキ
或如葉先キ筋筋付キ合アキ
小筋モ大筋ト付合也
葉ノ内ニキ様祐兼ハイカニモ能加減ニスリナリ
宗兼ハ成程浅クスリ故葉ヒツナリトスルナリノ
葉真ハ成程深クスリ故ツヨクミハナリ

一 笹之草

上カイノ葉三箇在ルカヨシ下カイノ葉八箇ナリスナリ
口傳アリ葉肉スキ草木ノ葉ト同変ナリ

一 牡丹之花之草



悪鋪牡丹之花ハ如此ニシテスボナル故橋ノ
花ノ様ニ見ヘテ悪ト云フニ毎ナリ



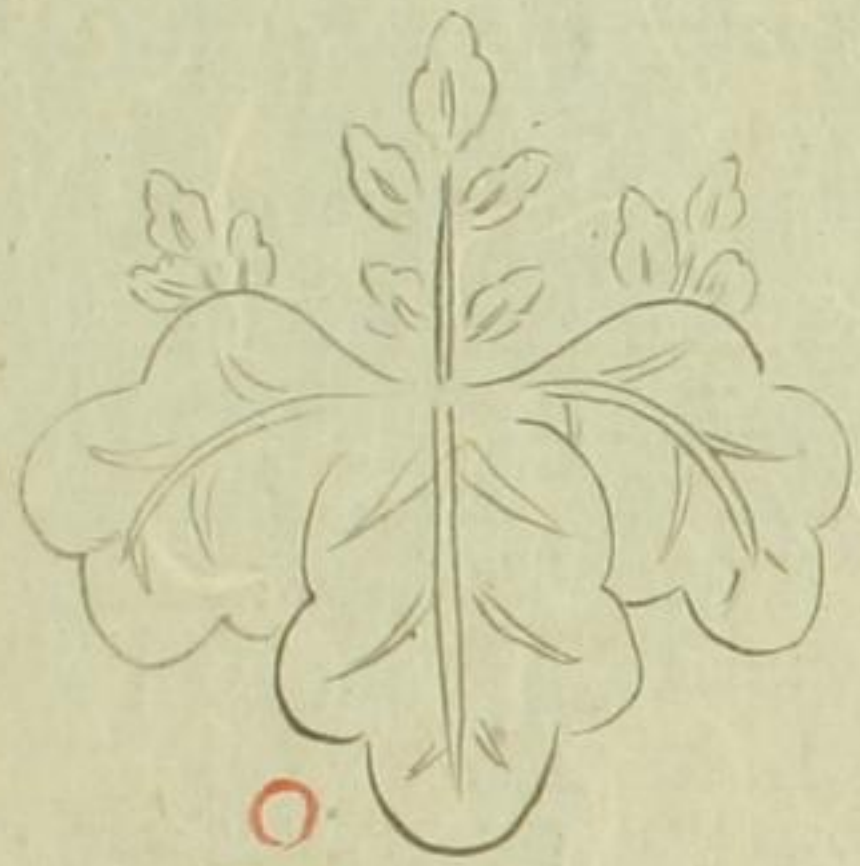
家ノ牡丹ハ横ヘヒラメナリ吉

一 桐之草

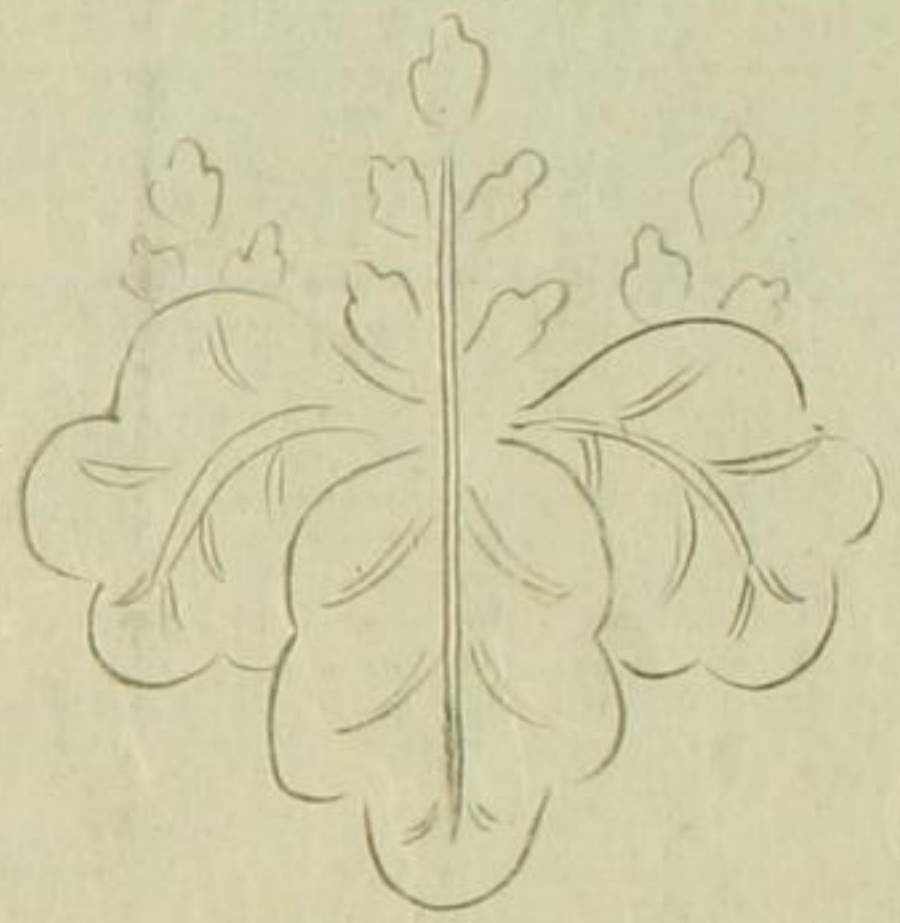


先如此ニ八角ニワリ此内ニ
拾好ノ合候様ニ形也是ハ
家計ナリ

爰如此ニワリタルガ士道丸ナシ



○ 上三ノ代ハ如此横ヘヒラミ葉真ハ女
立スホ成モ有又先葉ニ自然横ヘヒラミ
ツルモアリ



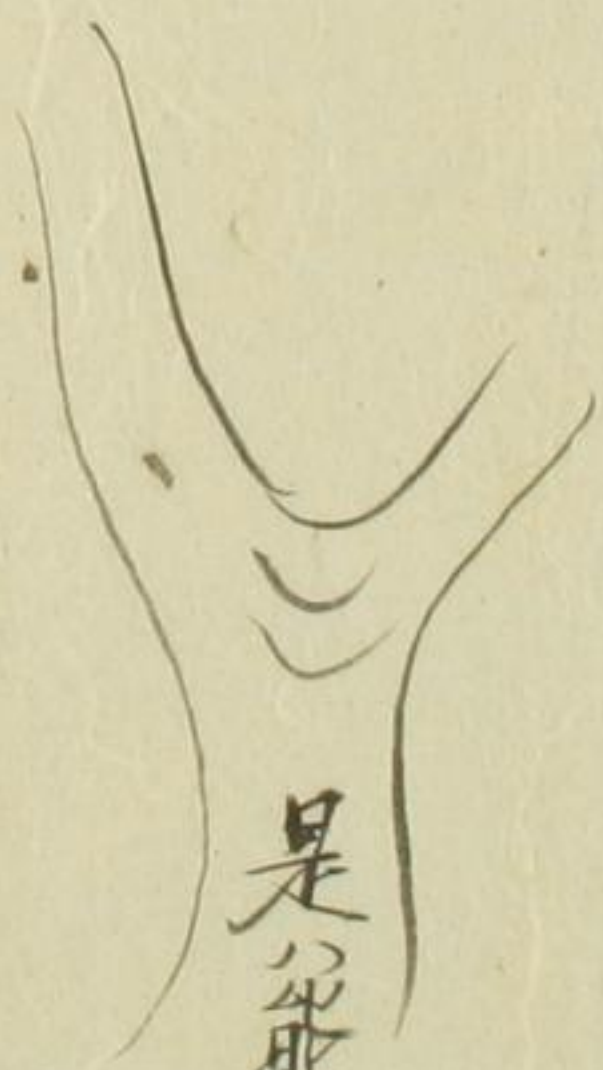
○下三代ハ如此ニタテヌボ也

一菊ノ花ハ惣テ丸キ物ナリ榮葉ニハ自然草流ニナトニ
ヒラカ成アリ稀ナリ

一草木枝ノ変

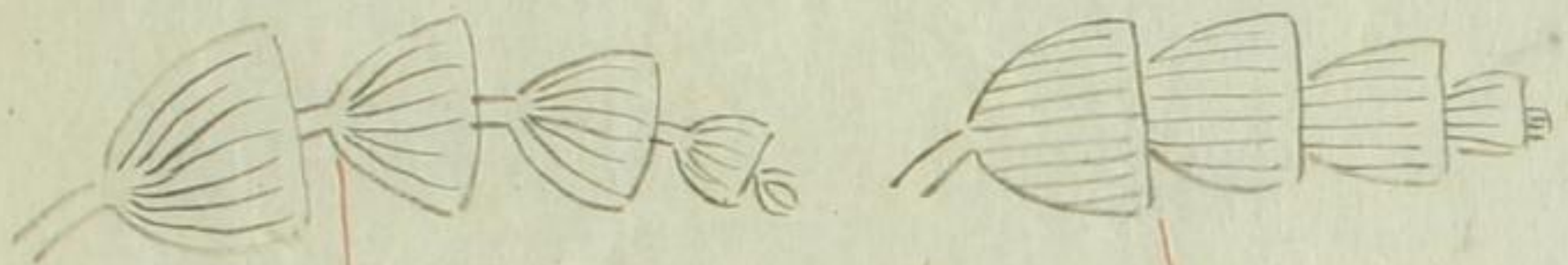


是ハ悪キ枝也



是ハ能枝也

一藻ノ事



如此ニ筋直ニ而アコ

此間アカスニテツキモ不見而悪シ

筋モ如此外トノ形リ様ニ筋クモ
タルナロ

此間アキツキモヘテ吉シ

一 絃之変

先ノ留リ如此ニ由リスキモセズ又由リ
タリモセズ能キ加減ニ由リセイ在テ吉
此間廣キガセイ在ツテ見変ニテ吉

如此由リ過キ或ハ由リタラズニ思ヒ

此間セバキ故セイモウケルケラ思ヒ

○ 絃の上ニシキキノ在様見ハ上ノ方細ク下張リ成ガヨシ絃ニ
ヤイ在テ見事也下張ニ口傳在リ絃ノ上ヒシテ下張ノ
心ナキハブトウニ見ヘ其上セイモウケルケラ思ヒ

○ 絃モ初葉ハ細クキヤセ也宗葉葉真ハ不クヤシ

一 露之変

ヒリミニ在ガヨシ露ノハワリ彫リ丸物悪シ彫ザルガ吉
乍去家ハ彫レサル計リ揃ヒタルハ又揃フナリ間ニ自然過ク
彫タルヲ難ル也又廻リ彫タル計ソロイテ在ルハ大キニ思ヒ
葉一枚ノ内露ニツニツ在ルモ露ニ大小ヤルカサ大
小ニ毎キハ思ヒ家ニ毎キ変也



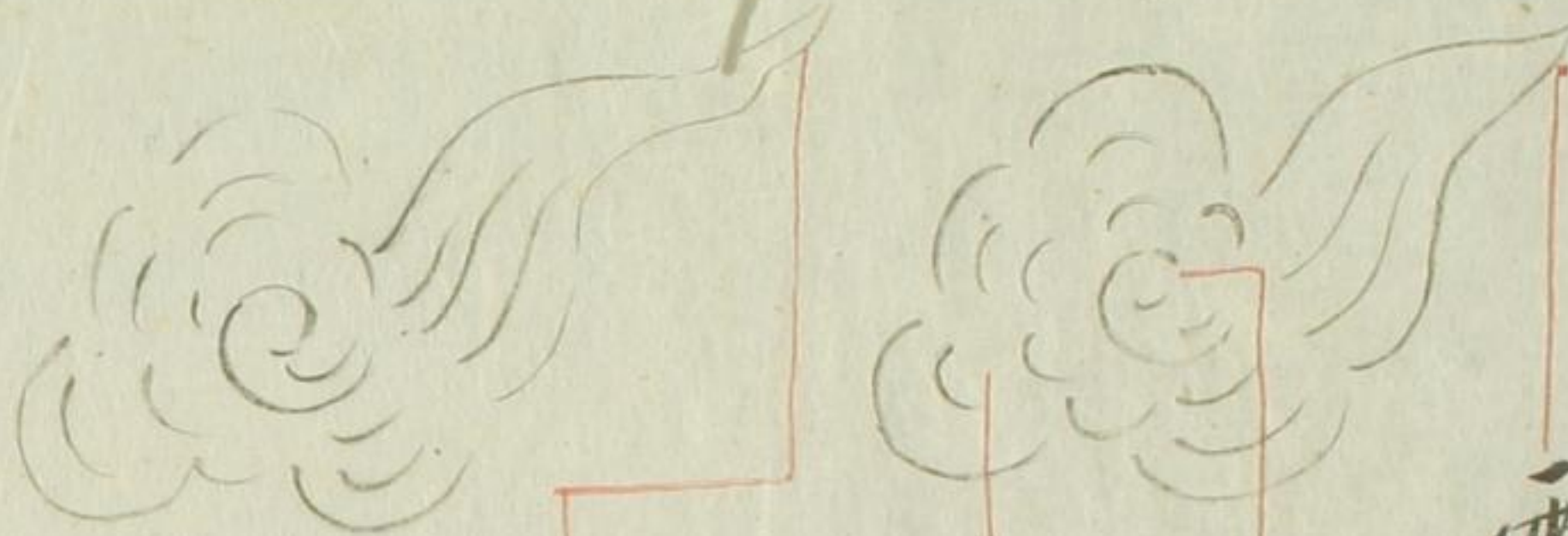
如此ニ露ニ大小有テ大キサ不変カサ

一雲之夏

雲ノ先如此ウ子クリ子キハ祐乗代也

卷留リ高クフトキカ吉ヒキク
細キハ惣シ家ニ毎キイナリ
夕キイ卷留リ高ク候テモ平ニ
肉ナキハ惣シ肉有ハ心ニ見ルベシ

雲ノ先如此ニウ子リタキハ
宗ノ乗ヨリスヘ



一岩之夏

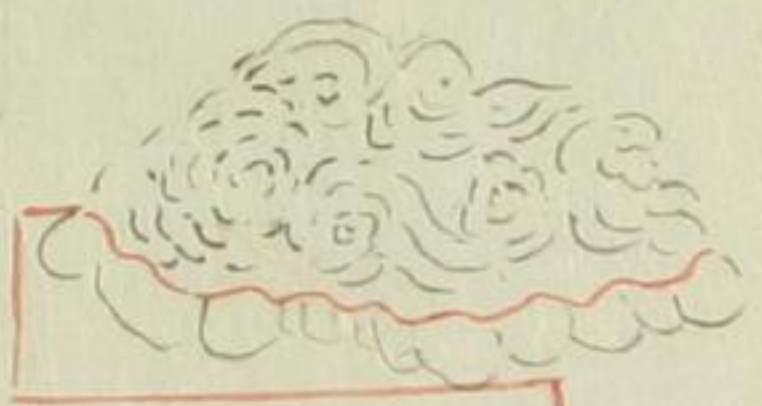
成程岩ウ之見ハ成程強クイカニ能クチナツキタルヤウニニル
カ士岩ニ在ルルヨウ子ガイタル士

一繩之夏

繩ノウキ廻リタル士ウラウラ尤惣シ繩上モヒシケルハ惣シ上肉有吉

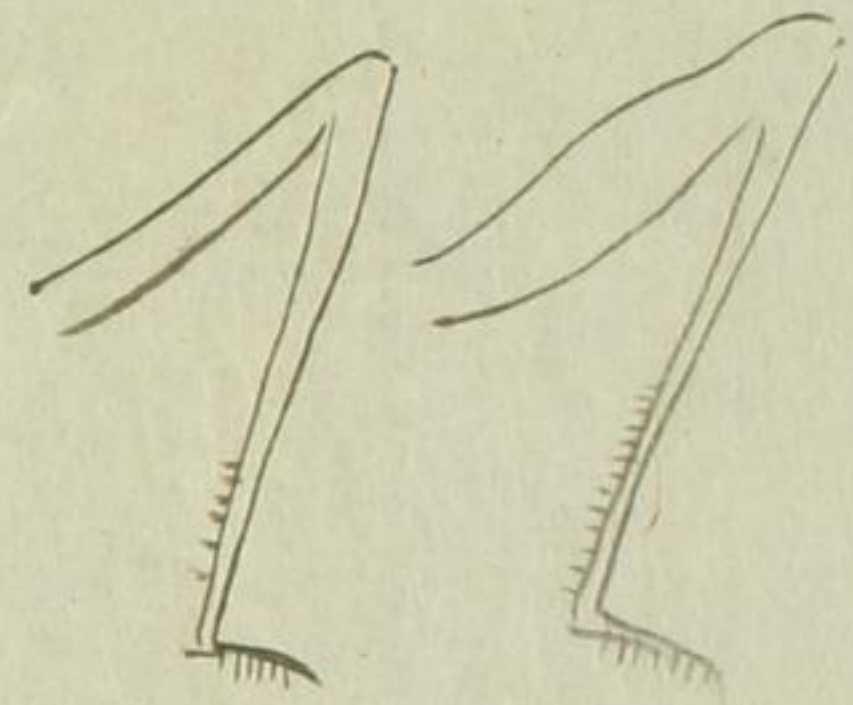
一諸生物見様

樽リ生物ノツラ見テ下フリヨリ眼鼻口通リ能合カニ毎ク眼
鼻各同様ニ見ヘルカ吉アニキ彫物ハセトヨリ眼鼻ノ舌
ノ通リ合ハズ而ユカニ或ハ一方ハ見入ヌガ多ク



家ハ此角ニ少シ丸ニ在リ惣ニ角在ハ
惣シ

一諸鳥足之皮



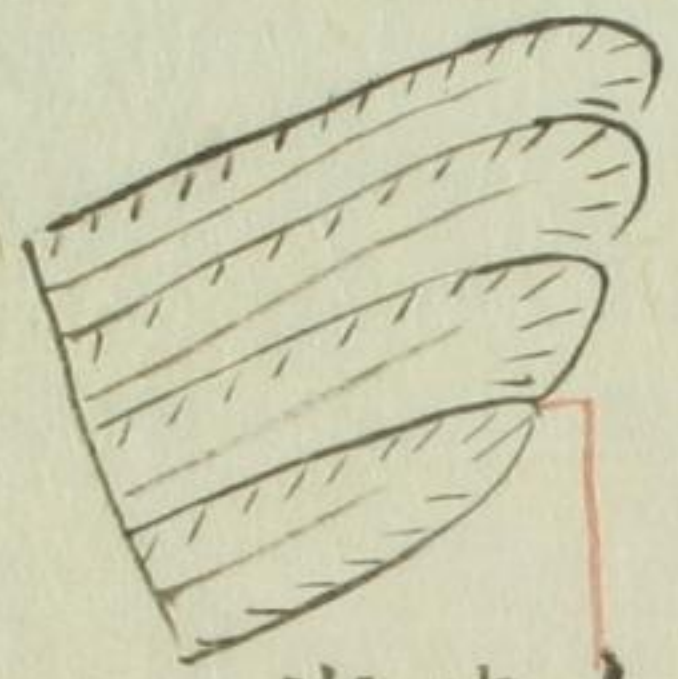
能足ハ如此也

悪キハ是也

一鳥之羽之皮



如此ニ羽一ツ宛ノ間深切入
羽先ノ形リモ細ノ羽ノ毛書毛
直ニ在テトシ



如此ニ羽一ツ宛ノ間浅キ故羽
サキノナリモアシク羽ノ毛ガキモ如
此ニ横ヘナビキテ悪ク家ニ毎ナリ

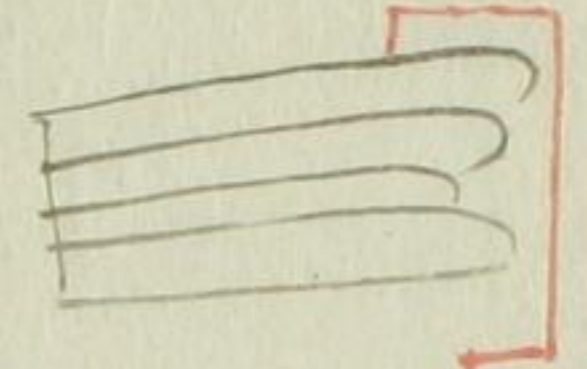
○脂之上方ニシノキ右様ニ肉在リ士肉毎ノ候得ハ脂
ノ上ヒシケ見ヘ惣ヒシケテ見ヘル子細ハ先下地ヲ能
加減ニ肉合ヲシテ扱上ノキガニホ放ヒシケニヒラニ見ル
也又能ノ下地ヲ上ニシノキヲ置扱キサニテソツ故
ヒシケテカラヨキ肉合ニ見ヘ上ノ方ニシノキアル様ニ見ヘル也

一 諸之畜類モ、ノ夏



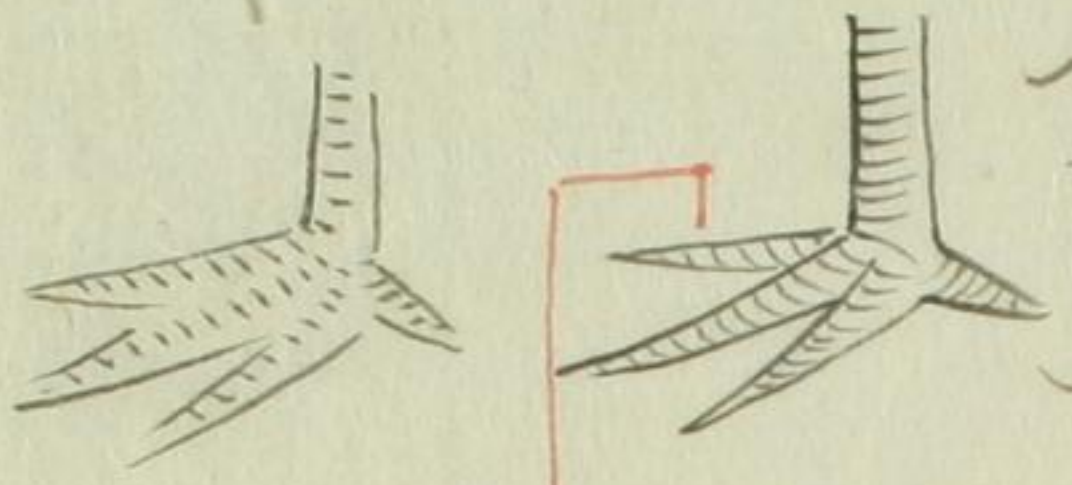
右ニ色片ニモ、ヨリフシテテ移リ思シ

一 諸鳥尾之善思



鳥ノ下カイノ羽高キハ思シ家ニ毎キナリ
 イカニモヒキリ
 之様ニ次弟ニ下カイノ見ユシ在カヨシ見越ニナリ
 見ルハアシ
 見越ニ毎キ尾ハ尾横ニ付ル様ニ元成ハ大キニ
 思シ家ニ毎キナリイカニモ見越多ク在カヨ

一 諸鳥足之夏



如此ニ下カイノ爪ニ見越在テ脂一本宛ノ
 サカイモヨリ能クキレタルカヨシ

此方ノ脂次弟ニヒリキ故見越アリ

此様ニ見越ニ毎ク或ハ爪一本宛ノ分シズ
 シテ思シ家ニ毎キナリ



モ、ヨリフシヘノ移リ如此成ハトシ

- モ、ノハハ祐乗ハ細クシテキヤシヤ也
- 同 宗乗ハ太ク而鄙シク
- 同 乗真ヨリ後ハ又細キ心

一馬牛羊猪鹿此類龍ノ毛ノ在畜類ハ何ニモ



龍ノ毛ト凡ノ間ノアキタル苦
凡少見ハ



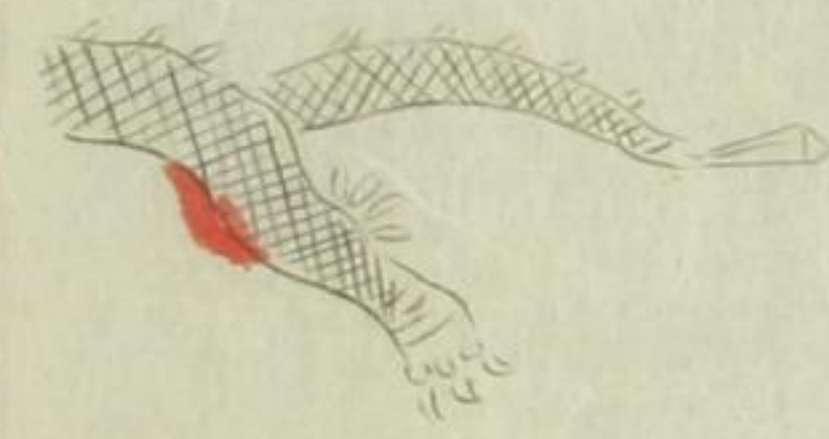
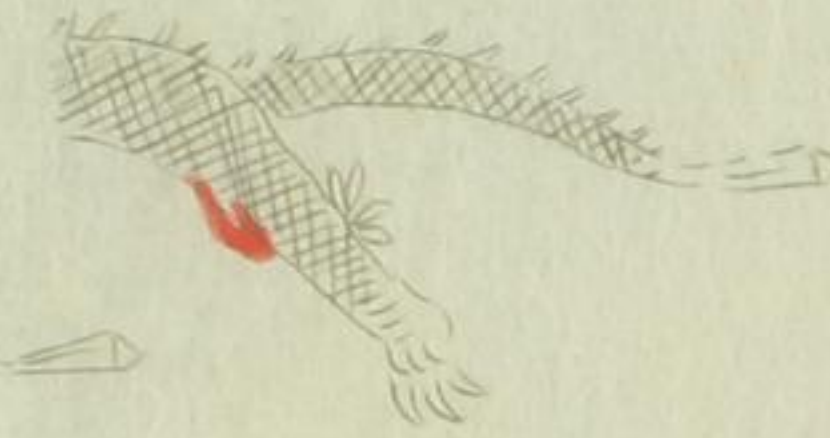
如此龍ノ毛ト凡ノ間ニ故凡毛
中廣ク見ヘ而大キニ思ヒ

一龍之見様

○ 叙



モ、ノ流レ

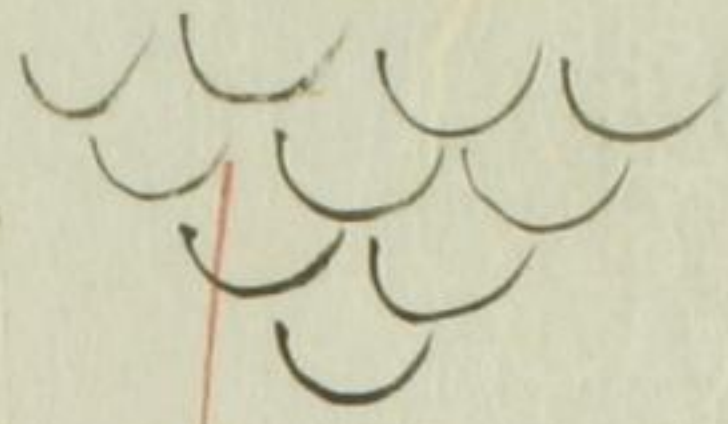
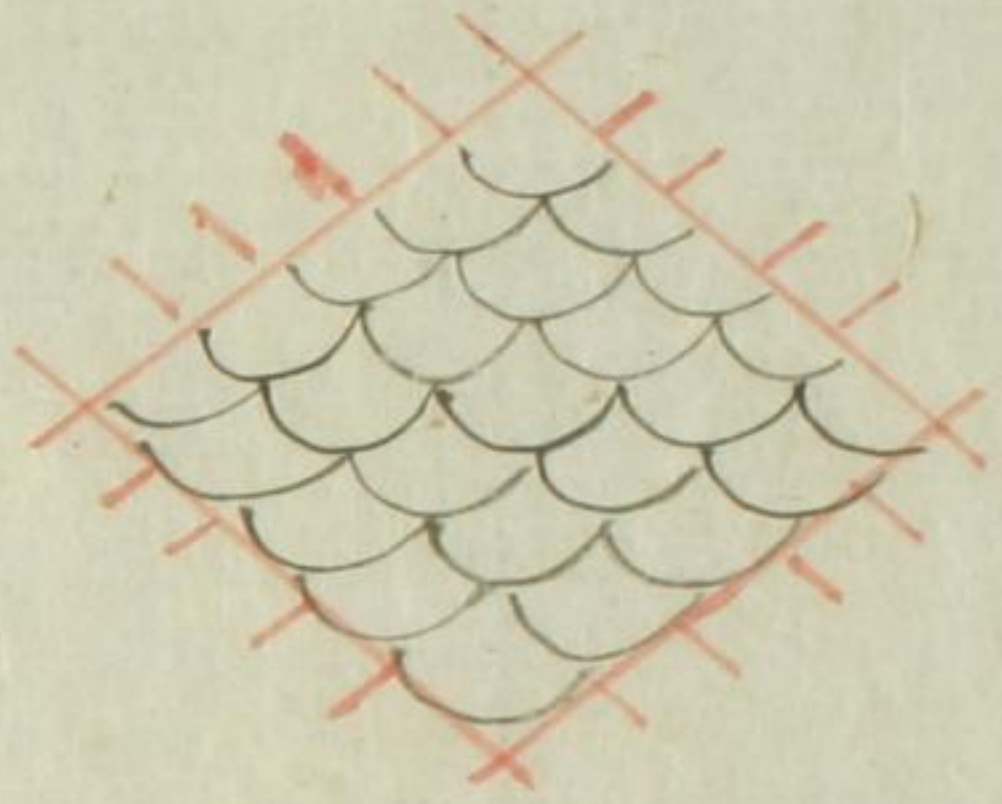


祐兼宗兼此ニ代ハ叙先イカラスニキ高ク
兼直ヨリ後ハニキヒクニ叙先怒リ兼真ニ
自然餘リイカラザルモアリ

胴ヨリ跡足ニテヲ移リ火焰ノ折ニ而
如此ニ直成ハ祐兼宗兼此ニ代也

如此火焰ノ折ニテ肉ツヨク出張タルハ
兼直ヨリ後自然兼真ニ柄竿ノ
置物ニ餘リハラザルモアリ目貫ハノ
龍ハカナラズ如此ニ多ク張り出ハ也

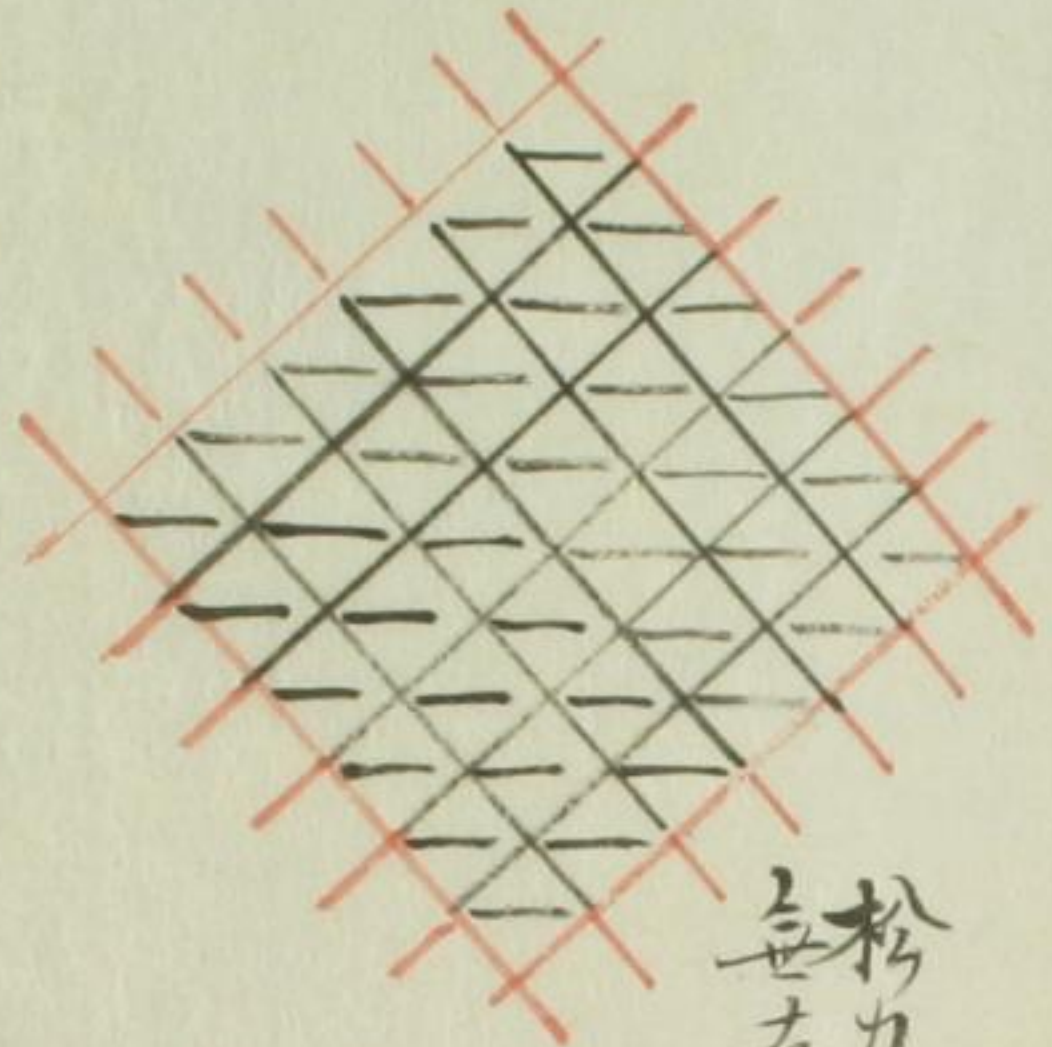
鱗三段之替り



ヒカキハシ是ハヒシニワリ扱其内ニウロ
コ彫ル故間遠クヨキテハヒシニ見ル
鱗ニ大小無ク能ソロ丹具在ナリ

一枚ハシ是ハ鱗一ノ宛彫ル故鱗
大小在テソロハズ

此間モ如此ニ明キ



松カワウロコニ是ハ祐葉ノ出来物ナラズハ
無古又ナリ

○祐葉尖カクヒカキベニ枚ベニハ筋也

○宗葉モ大形トカキベニ一枚ハモ自初有

○葉真ヨリ末ハ一枚ベシ

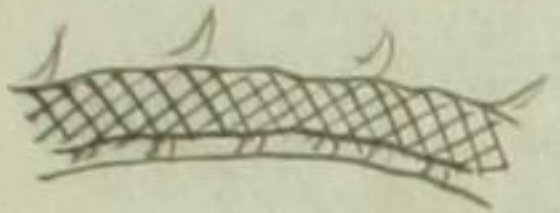
○物而家ノ鱗ハ背モニヤウク強キ所ハ
アラクモ尾先キ其外物端ニ程細カニ

○祐葉ハ短ク細シヒレシゲク而キヤナリセナヒキニ
ツレヒレモ能キハシク程短カク細キナリ

○宗葉ヨリ末ハヒシノ間遠クヒレフトク長シヒレニ尠
ナヒキハ候得共祐葉ヨリハスクナシ

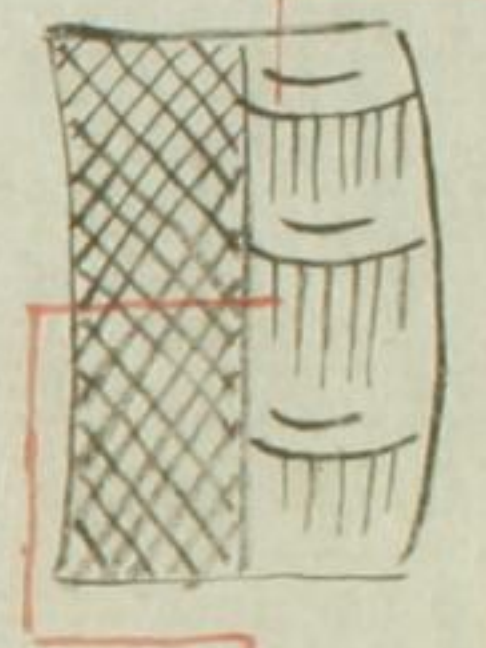
○宗葉一代計リ如此ニヒレニ及在リヒシノ間
取分層シヒレ細ク長シ上ニニノキ在ルヤウニ
トガリテ見ヘル

○ヒレ

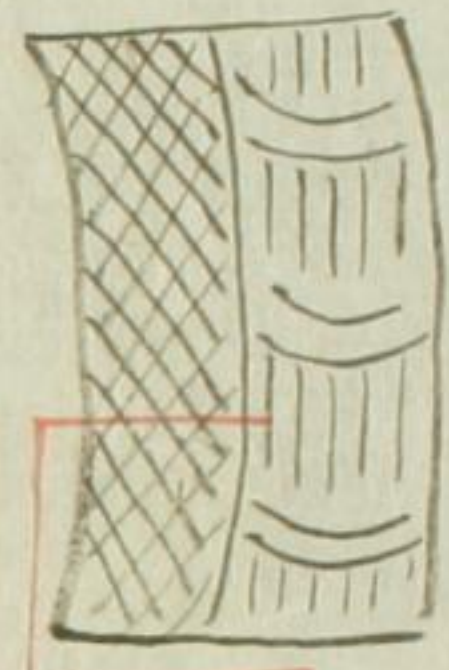


○尸腹

○祐柔

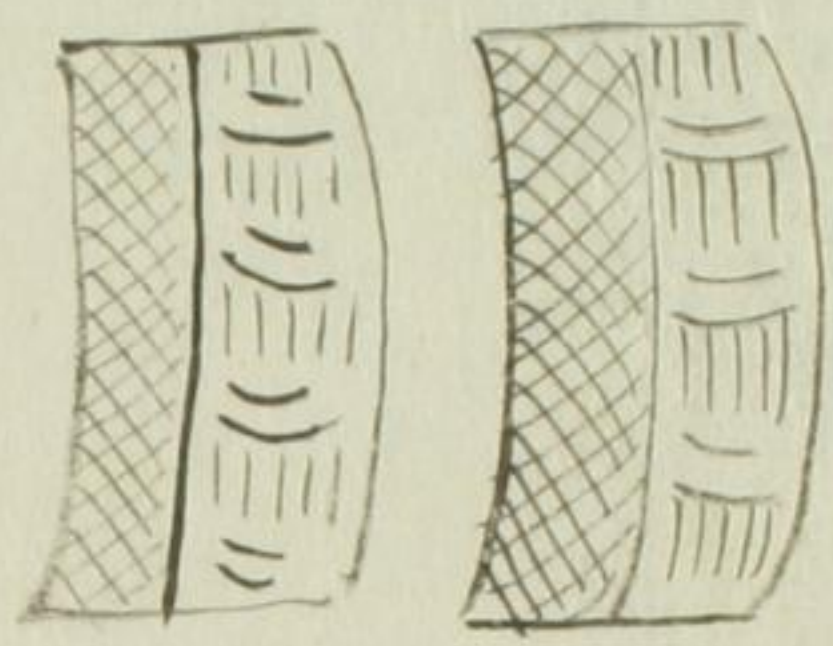


如此二横ノ下筋必切離
如此二横及リテ中をミ毎ク又クニミテ
筋ノ上方如此二横ノ下筋必付合也



此コトクニ横ノ上筋トト堅筋付合
傍ハ祐柔ノ出柔物チラハナキナリ

○宗柔

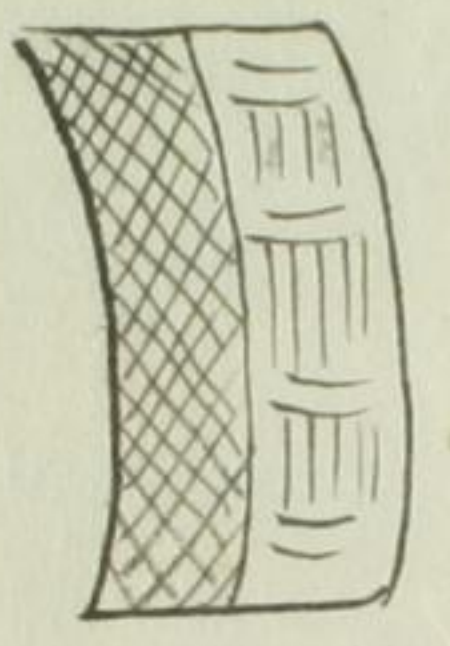


祐柔ノ梯ニ横ノ下筋切レ離レタレモ
左ノ堅筋上ノ方横下筋ノ付合モ在リ

如此二横ノ下筋切レ離レ又モ在リ
如此二堅筋上下付カ又モ在リ

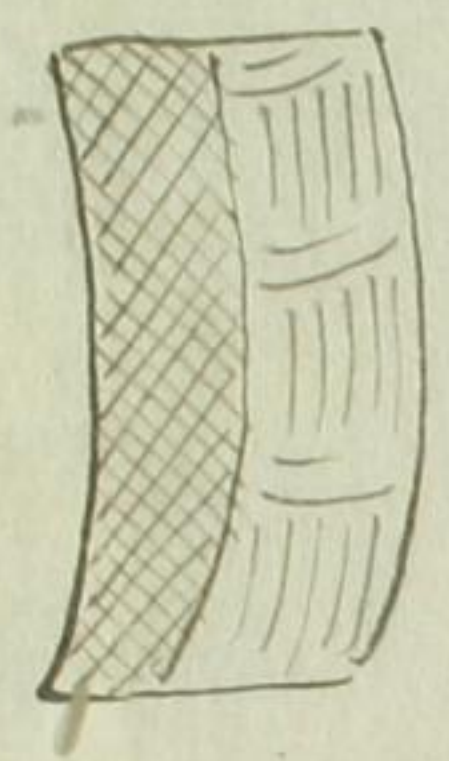
○柔真

○光柔



如此二横筋切レハナレズ而堅筋モ
上下ハナレズ而筋モ直也

○德柔



此時代ヨリ末ニ堅筋ノ反在リ

○榮柔



是一代計リ此間廣ク堅筋モ
德柔ノ梯ニ及リ在ル也

○ 尻



祐葉ハ如此ハ一本宛ノ間切込浅クハ見越
シクタクナリ物鉢セイツヨク見ハウテクセニ肉
毎ク細クキニヤナリ



宗葉ハ如此ニハ一本宛ノ間切込深クハニ
見越サチクウテクセノク依是ハニキタイ
ナク又ハクハ見ルナリ



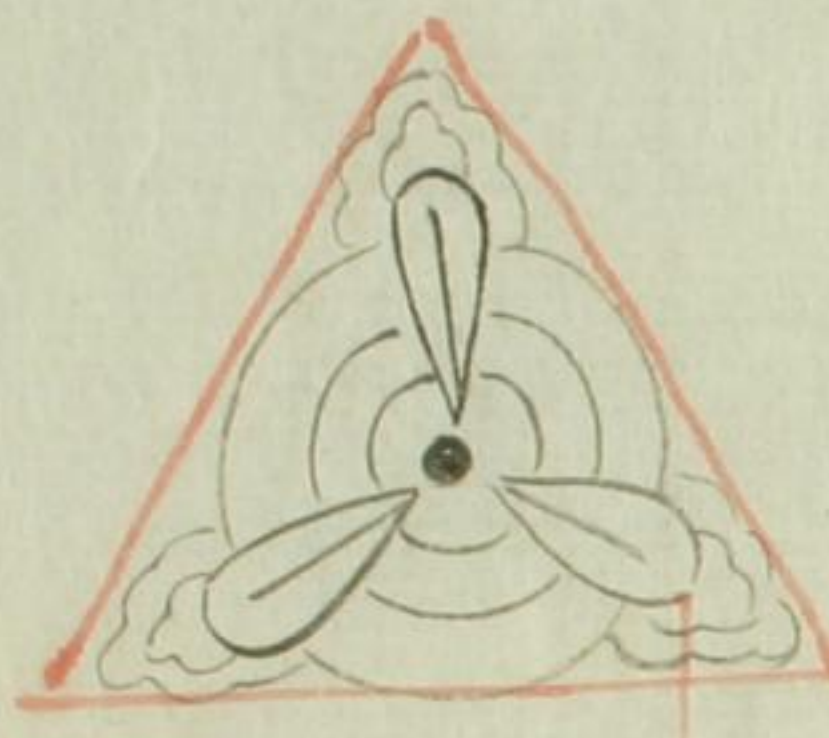
葉真ハ一本宛ノ間能切レ入リハ様ニ見ハ
ハ先ヒラキハハニ見越サニモ毎クウテクセ細ク
見ハウテクセハ大キクニハナリ



光葉ハ歸クハ一本水ク反リ在リハ葉真ハ
様ニハサキヒラキ自然ヒラカザルモ有ハハニ
見越サニ在ウテクセ右分チ細ク
徳葉ハ葉ノハハハ様ハ然共ハハニ
キタイナクハ要キナリ

○ 表目貫ノ玉ヲ持タルウテ裏目貫ノソラノ先ハ出タル
ウテノ支支

玉ヲ持タル尻ノ事



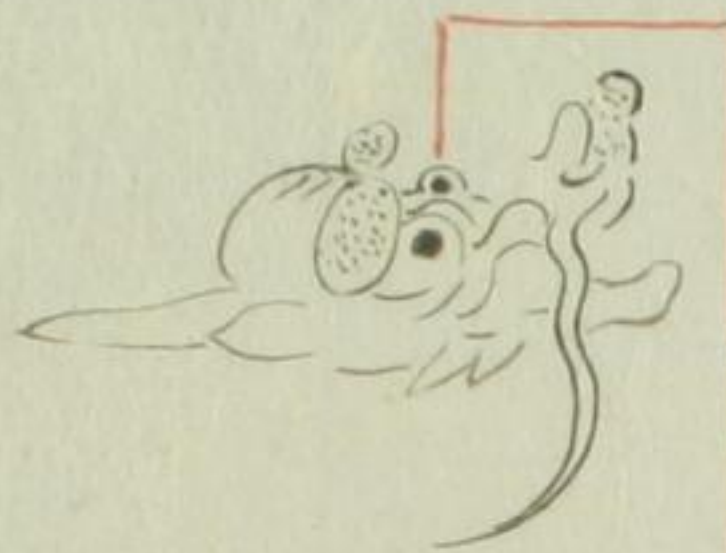
如此ニハ肉多ク見ハルハ祐葉

- 祐葉ハ右ニ色ノウテチクセラニ見ル
- 宗葉葉真ハ肉毎モ在又肉右ニ在
- 光葉ハ大方肉有ラニ
- 徳葉ヨリ後ハ大方肉ナクセラニ見ル

面鉢之変



眼玉ニ肉無ク眼鼻深見ルハ祐葉
 子ノ黒眼ノ歩様モ浅クイカニモ少
 様カルク見ルナリ宗葉ヨリ未ハ眼ニ
 肉有ラ由目ニ見ル黒眼ノ歩様モ
 深ク重キ



眼ノ間ニテ鼻ノ筋如此ニトカリ
 三角ナルカ吉ヒニケ或ハ眉ノ間ニ
 骨合候ハ思シ
 眼ノ地取ノ廣ク見ルハ宗葉ヨリ
 後セバク見ルハ祐葉一代ナリ



如此ハ肉少ク立ルハ宗葉ヨリ後



横ニ持タル玉之圖

○家ニ玉ヲ横ニ持トテ変々モ

○祐葉ハ玉形ヲ様成故ハ肉多
 見ル也
 ○宗葉ヨリ未ハ玉形ヲ様成故ハ肉
 少ク見ルハ玉ノイリタル様ニ
 見ル玉ヒラメクナリ

イノ夏

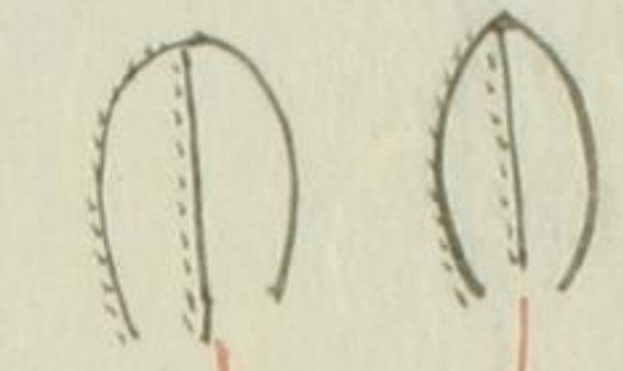
眼ハ獅子台凡モ同夏ナリ

イノ留リ祐葉ハ如此ニ丸シ前在ハ
一圓ニナリ

宗葉ニ身真此ニ代ハ如此ニ角アリ伴
宗葉ニ自然丸キモアリ

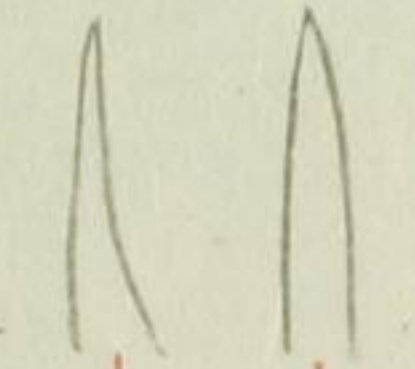


耳



祐葉ハ如此耳先トガリ心也丸キモ自然有
稀ナリ
宗葉ヨリ末ハ如此ニ耳先丸ク宗葉計ニ
自然祐葉ノ耳ニ留リクモアリ

角



祐葉

宗葉

額之皺之夏



祐葉ノ皺如此也自然ハ文字モ在

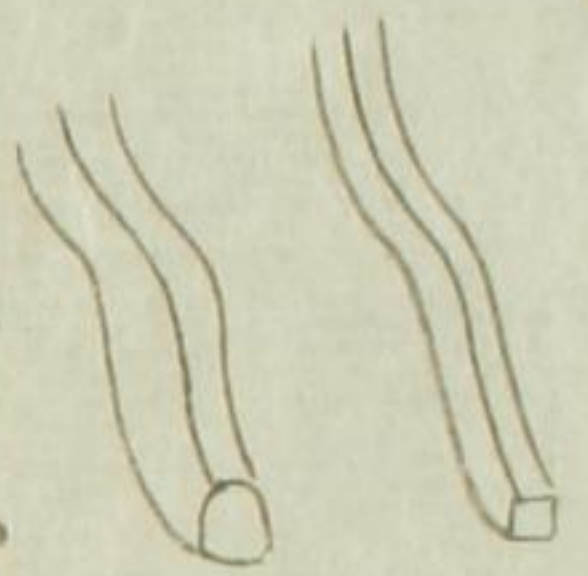


同
祐葉如此ニ皺ニ不助有モアリハ文字子ニモ



宗葉ヨリ末ハ如此ニハ文字子ナリ

○鬚



祐兼鬚下張ノコ、口少モ毎ツ鬚細ツ而
キヤレヤチリ

宗兼兼真此二ハ如此下張ハ鬚太
フトウチリ
光兼ヨリ末ハ又細而キヤレヤ也下張ハ心モ毎
ツ

○口之内附腮之皮



祐兼ハ口ノ切レハ深過キモセズ又浅クモ
ナク能加減ナリ口傳

宗兼ヨリ末ハ口ノ内祐兼ヨリ浅クモ也
但シ宗兼計リリ自然深キモ在シ共
能レシハ又祐兼トハ違フナリ

口ノ明キル下腮長キハ宗兼ナリ祐兼モ
又ハ兼真ヨリ末ハ長過キモセズ能キ
加減ナリ

○齒

○龍虎獅子物而齒ノ見ル程ノ多異類同又祐兼ハ齒
奥深成故目貫ノ平ヨリ見レハ不見而横ヨリ能レハ
イカニモ奥深在リ上齒ク短ク下齒ノ一枚ハ梯ニセ
ウニ在而ウツナク熊ワリツハ也齒ニツヤナリ

○宗兼ヨリ末ニ出齒ハ心故目貫ノ平ヨリ齒能ハ齒ク
長ク齒ウツクモクツヤ在ル梯ニ見レハ也光兼ハ齒分
ク流ナリ

○龍代ノ風俗之事

○祐兼ハ見付餘リ大キニ高クモ毎クエモリト高ク
上カイ下カイノ高下能キ加減ニ在リウツク七尾先
諸更細ツシコジヤリニキヤレヤナリ

○宗兼ハウツク七尾先ト物懸太ク長調江也上カイ下

ノ高下餘り垂リトツタリトニテイヤシク下リ也
 ○兼真の上方イ下タイ高下多ク有而強ク見へ繪様
 ノ境ニメカ子深クキ込テテ尾先キホモ細キ心
 △此三代ニ而末三代モホレルナリ
 ○クリカラノ籠之度



ノミクリカラノ圖
 トツエ此間廣キハ思ヒ併兼真ハ
 外ノ作ヨリホシク廣ク

彫物ノ多ヨリ見テ諸ノ籠ノ巻タル間々ノ劍通能合ハカシ
 シキモ劍ノトカリ先ト下ツノ真中道リノ中キトリ能合ハカシ
 彫物ノ横ヨリ見テ籠ノ巻タル間々ノ劍ニキ高下ナクカ吉
 祐兼ハ劍ノシキ高下宗兼ヨリ末ハ之年ヒクニ併宗兼
 兼真ニ自然高ナルモ在リ



○玉之形



下アゴ此所ニテタユミナキハ思ヒ
 如此齒多クハ思ヒ或ハ唇ノ先迄止齒在テ思ヒ
 齒ハ重キヤクニ見テ能見レハ自傳ニ少ク在ルカ吉
 孫ニ祐兼ナドハ齒ニハカヌルヨリナリ
 如此下アゴ此所ニテタユミ在カ吉
 如此唇先ニテモ少シキヲイ在ル心
 如此ニラテクセノ大キニ細キハ思ヒ
 能加減ノ此フト
 ○祐兼ノラテクセハ細メニ而キヤナリ
 ○宗兼一代ハ太ク而ノイヤシク
 ○兼直ヨリ末ハ又細メナル心

一 獅子見様



爰ニ上ヘ高様ニ丸ク肉在カ士肉毎キハ惣肉多ハ
宗乗也祐乗又ハ祐乗ヨリ後肉合能加減ナリ
ウテクセ此筋ノ所ニテ肉毎ク細キハ惣ニ殊宗乗ハ
取分フトシ外作ハ肉合能加減ナリ
此見越シノ足ト表足トフトミ違タルハ惣ニ或ハ
細ク或ハ上ニ肉毎キ故ヒラミフトリ見ヘル
如此ニシテヨリ踏ヘノセノウツリクミタル肉置ハ
祐乗又ハ身直ヨリ後ナリ

宗乗一ハ背ノ移リ如此タクミナリ
真成ル故一トクニ部ニ見タルナリ

モノハ中廣キハ宗乗一ハナリ依是イヤミク
ミユル祐乗イカニモ中セバツキヤミナリ身直
ヨリ未モ亦ハバ杖キナリ

○ 踏伸タル跡足



光乗一代如此ニ投足ニテソトヘ反
タル様ニ見ヘル也

外ノ作ハノベ様此フトリ也

- 一 口内ノ深淺并齒籠ト同也
- 一 眼籠ト同也
- 一 口ヲ明タル舌籠ト同也
- 一 額ノ皺籠ト同也
- 一 眼ノ間ヲ白昇筋籠ト同也



○尾モ家ハ如此ニヒシノ内ニ合候様
也
尾筒之方

○マイノ夏



○祐兼ハマイノ留リ如此也
髪ニ少クシマアリ



○宗兼ヨリ後ハ如此ニ丸シ



○祐兼ハ如此ニマイ尻上リ也
額モク様長メ也



○宗兼一ノ代ハ眉アラキテ直也
額モヒシケ

○見帰リ獅子ノツラ



祐兼ハ如此ニ四角成恰好也

宗兼一ノ代ハ眉ノムキ過ル故
如此横ヘ廣ク

兼真ヨリ後ハ又祐兼ノ様ナリ

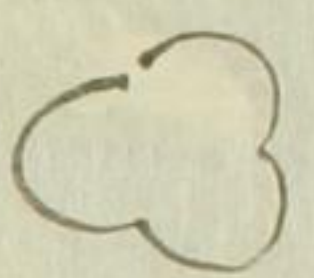
○フノ夏



祐乗彫ヤウ成程輕ク切レタハ所モ
同ニテアリ



宗乗ハ如此ニ祐乗ヨリ猶細ク細ク
ツキキテ



身直ヨリ後ハ祐乗ヨリ少クフク
能ツキキテ

○物而フハ大キニ太キハ或ハフノ形リ九キ物家ニ
毎ナリスワノ形ノ物ノ間ニ有者九キ様成モ在リ

一 虎之見様

○尾



祐乗ハ尾先如此ニ留ルナリ
尾ノ子クリ様モ如此ナリ

毛書モ如此ニ尾ノ子クリニ
ツレテ

宗乗ハ尾先丸ク

尾ノ子クリ様モ毛書モ祐乗ニ
同

身直ヨリ後又尾先祐乗ノ様也
少クセイ又ルツ尾ノ子クリ様モ毛
書モ同

○ 悪箱尾之夏



- 此繪圖ノ如ク尾先キ細ツトガリ或ハ尾ノウチナリ
 毛モ在ルヘラ子ナリテモツツナラデハウチナリナリ尾ニ
 モナイ毎ツテ用ノ尾ノ様ニ
 毛善モトビキ毎ツ様ニ在ルヤウニテ大キニ悪シ
- 一 毛、巾籠獅子ト同事
 - 一 七ノ彩リ同夏
 - 一 眉尾上リ同夏
 - 一 眼同事
 - 一 口ノ内並齒同事
 - 一 口ヲ明キタル下唇同夏
 - 一 代々風俗同夏

新製
 謡曲

志屋美久

白菊琵琶作由出腸神主舊帽子調支掛厚板

早因柳そとく尾張おとの國くに轉まわ回りの明神あきかみ小仕こし八奉やっぺ了り

神藏かみくらの者もの也なり扱あつかもも交まじふふ大政おほまつ大臣おほなみん師長しやうぢやうの心こころと

中奉なかつまふふ。天あま命のみこと小こかかくくままるる海うみままままぬぬ。音ね律りつの

妙たねを得えるるひひ山やま方かた尖とが山やま入いるる。いい成なり山やま奉まつりり

也なり刺さ期きの山やま身みををたたせせるる。此こゝ所ところの東あづま井いをを田た

の里さと小こ流ながるる。是こゝにこゝ孫まごのの心こころ比ひふふるる治ち業ぎやう三さん年ねん

秋の末の御祭あり。今年秋の末も
何の御祭にも違ふ。大臣宗吾の御祭
くふ。此御祭の祭日七日の山に於て
山座の祭今宵満祭の山座の。此の御
祭にさき——と菊の御祭を
奉祀あり。神前より右月の山に於て
弾じり。毎夜秘曲を奏し、

神も御受——と有難き御事なり。
今夜の御祭も唯今宵のみ。社内を先
の御祭にさきと存

大臣

放發 唐儀大臣
腰帶 袷衣

童子

放發
長巻

大臣の御祭あり。神壇より
たの御祭も上は大臣の御祭の御長と存我
りあり。我思ひも人の説き口をのりて此

神楽仕り金むらさき。こゝろ音律の調子の事
あつしやおたけし 音のあつたけはあつたけ
日比支音律の調子の事。角微宮高羽の
五音のおこす。唐土黄糸の調子よりを
と名 大倉 中 小 女 黄 糸 年 盤 の 五 調 子 を
本 上 五 上 五 の 二 調 子 を 合 す 七 調 子 は
いふ 新 金 勝 絶 息 鐘 神 仙 響 鏡 の 五 調 子 は

是 分 調 あり と 名 東 か が 由 二 調 子 あり
呂 律 あり 金 石 絲 竹 匏 土 革 木 の 八 ツ の 音
と 名 あり を 中 も 幾 の 音 世 の 中
神 楽 の 音 律 諸 音 律 も 各 あり
又 幾 の 音 律 も 各 あり
い ふ 新 金 勝 絶 息 鐘 神 仙 響 鏡 の 五 調 子 は
い ふ 新 金 勝 絶 息 鐘 神 仙 響 鏡 の 五 調 子 は
い ふ 新 金 勝 絶 息 鐘 神 仙 響 鏡 の 五 調 子 は
い ふ 新 金 勝 絶 息 鐘 神 仙 響 鏡 の 五 調 子 は

上日
四季折々の花の由 霞裳羽衣の舞の秘
くまは 秋の月宮の御法あるを 村
今宵の天の糸 ありさけこも 神鳥也
いせの 嶺 萩の 舞 踏 也
せん 春い糸 津之 中 津 祝
と 中 少 其 後 琵琶を 仕り ぬ ぞ あり 小
舞 上 祝 言 故 中 さん 神 心 祭 也

さげつ 祝言を せり。 謹上 再拜
敬白 大政大臣 藤原の 師長 の 心 中 奉るハ
柝 天 津 児 屋 根 の 命 の 孫 大 織 冠 藤 原 氏 の
宗 葉 朝 政 村 雲 の 時 村 雲 の
お 祈 罪 を 赦 祈 本 村 氏 あり け ます の 心
此 村 氏 せん け たり 村 氏 あり け ます の 心
上 感 應 した 事 の 心 祈 願 紙 受

あはれ

作り物の小面 黒た巻唐冠 神毛 将気
大口 腰帯 赤くろ柄

且 山 殿 あきり 小 心 動 し 月 の 影 も 如 く

や ま 山 の 塔 い 川 さ 山 の 塔 い 川 さ 山 の 塔 い 川 さ

あり が 山 の 塔 い 川 さ 山 の 塔 い 川 さ 山 の 塔 い 川 さ

あ ん だ ま 城 と 獲 る 皇 も 天 界 小 の 北 平 文

由 七 星 と あり 別 勢 面 の 山 林 の 相 殿 建 新 種 の

命 め せ い ま い あり 日 上 其 特 虚 空 は 音 樂 也

如 く 月 も 如 く 空 も 四 種 の 花 あり さ

が み あ り た る 舞 踏 也 其 特 大 秘 曲 也 舞

法 住 真 の 夢 を 後 の 舞 樂 あり 花

樂 か 夜 に 舞 う る さ 舞 踏 也 其 特 大 秘 曲 也 舞

音 も あ り た る 音 の 舞 の あり さ 舞 踏 也 其 特 大 秘 曲 也 舞

舞 臺 あり さ 舞 踏 也 其 特 大 秘 曲 也 舞

松姫の御入道

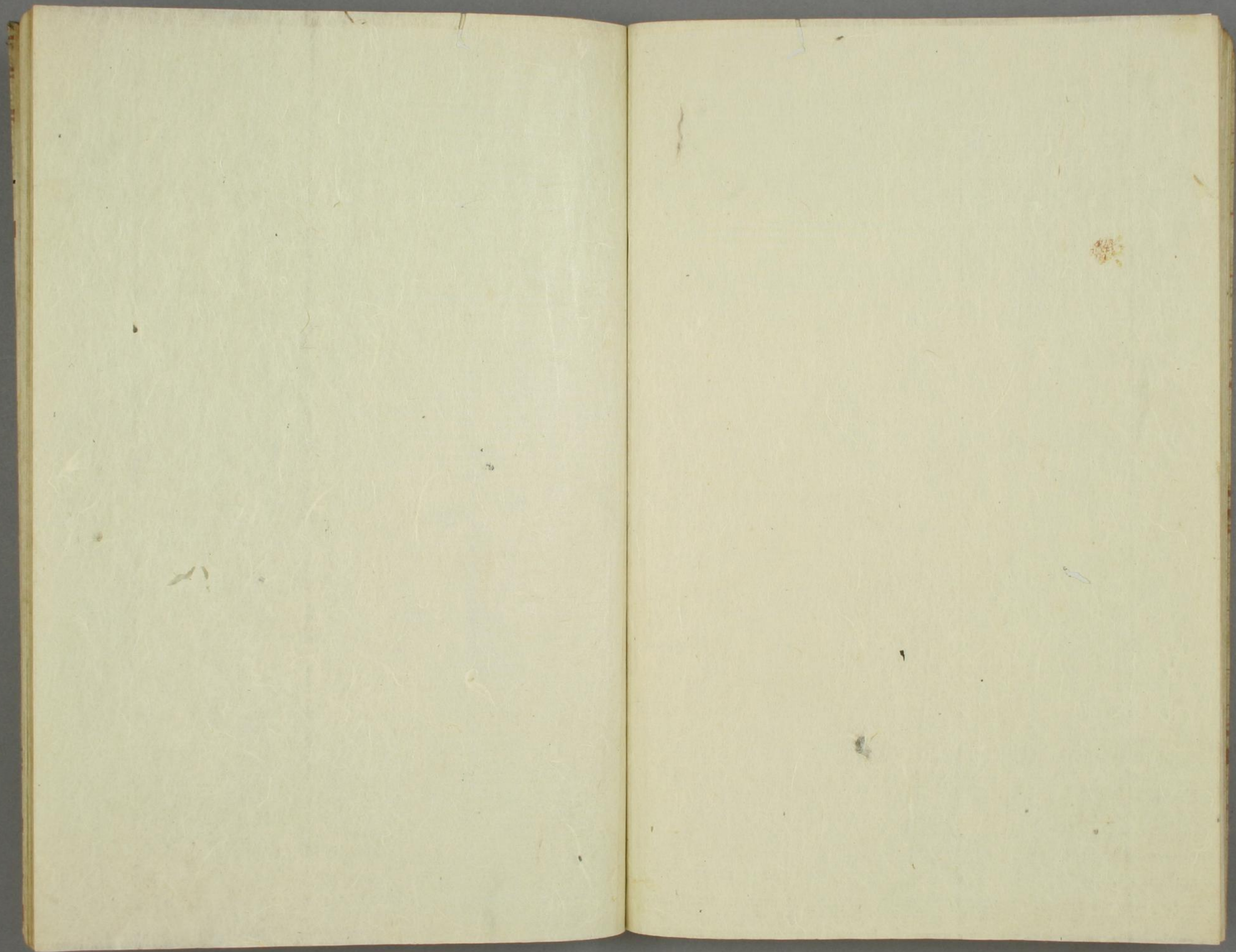


此謠者青鳳軒自作所則
其直傳正本得借寫之予
能之圖式加也

于將文政第式己卯初復下旬

猿猴菴





潘吉凱先生學

球歌國字解

天窓閣藏



序古文手球詞

魯驕王欲廣妾宅毀椽久之象聞有口彈之聲亦於冢中得一書其畧曰孟春之月。殺日在女昏客中。且牒中其音甲乙其神年。適其蟲禍斗。僕中太食亭至忘八其味。辨其臭腥其祀我先疇積松高標戶。塾徒初。齋客上閣蓬萊出。室度祭客子居音樓左邊。乃載觴珪凡客五盃。歌妓擊問九盃。

其三推者指故也服骨董食鳧與水菜杖錯刀衣羽衣乘籃輿其人疏以達云云文多不載
蓋古曲中之月令而粹人制作也可不貴
哉今年謎詞弦之也余與久之商益顛友
善得悉其書附記于此

年陽 潘吉凱選



凡治遊也者有備而興不佳者有不慮而興刻
者吾知之要之和與不和已夫二三其交
者甚既同款收五之入幫間之七八
舞於弱收研之陶之不各樂乎而非其重者
意迎而理會則合希矣焉無乃強彼宗入乎
天翁耶近世更唱迭和若步練十二將詞若
等一人唱又胡越擊節於是乎何暇問焉近
而理會也者蓋是化者常焉于此乎吟客

飄侶伍之可里已人不敢問者何也也也辭
 婉曲不直解得也去接合席唱和華傲也也
 辭婉曲也層乎陽先生為注解作者之旨
 覈然彼其所以一人唱之胡越聲氣然之可
 以大入君子意迎而理之合席生春也且彰
 彰乎迺孟南氏所謂典象樂樂者乎

墨客御是



引證書目

- | | | |
|-------|------|------------------------|
| 詩集注 | 易大全 | 易啓蒙 |
| 史記 | 老子 | 月令廣義 |
| 博物志 | 孫子 | 雲漢支議 |
| 白氏文集 | 獨異志 | 志怪錄 <small>祝元明</small> |
| 水鏡集 | 說鈴 | 志異 |
| 北戶錄 | 武林舊事 | 揚太真外傳 |
| 漢雜事秘辛 | 板橋雜記 | 西遊記 |
| 今古奇觀 | 焚椒錄 | 金翹傳 |
| 唐絕句選 | 徐氏筆精 | 醉菩提 |
| 堅瓠集 | 赤繩奇緣 | 雞窓解頤 |
| 涅槃經 | 俱舍論 | 法華經注 |

佛祖統紀
萬葉集
夫木集
袖中抄
今昔物語
一休和歌狂雲集
蛭叢集

以上

日本紀
拾遺集
忠度家集
梁塵秘抄
著聞集
歲事記
通言便蒙抄

全纂疏
歌林良財
徒然草
古事談
元亨釋書
俗諺志

先陽春奴曆閑者快活哉皆火水始

春ハ陽氣盛ニ萌ル時ナリハ陽春トモ昔陽トモ也春ノ和訓ハ萬物將テ得テ張出ル也ヒメハシメノイ梁塵秘抄ニ正月始テ於馬場發馬ニ騎ヲ飛馬始ト云

梅弓馬場ノアミタノヒメハヒメ是ヲヤ入ノ若ニ違フラム謹テ考テ詩國風有女懷春古也謝文ト云註ニ春ハ滋生ノ時ナリ故媒ト云テ男ヲ入スルナリ懷春トハ婚ヲ思フ也コノ義ニテ陽春快活ノ句ヲ設ケテ作者ノ高才ヲ觀ルベシ

告也

一津正月置歳底齒於客者率然於門首作揖

齡ト弱ト至百ヲ借用テ目由度ナリ方ニ似ナシ一將ノ妙用也

籬枝禿婢者例土置千米采

亦石ノ蛭叢先生文集ニ籬枝ヲ以テ禿ノ字當テ甚新奇ナリ

按二聊齋志二如妓ヲ離妓ニ作ル故ニ新般ノ訓或セ入玉置ノ
事ハ明ノ茶玉燈ガ新婚ノ哥ニ見ヘタリ其文ニ云リ卸去羅襪露
酥胸辰舒聖殿花城封玉脂墳起無蒙草一朶出水新養容駐
蒙茸ハ竹叢ノナリ又墳起トハ土ノ堆高ク九身ヲ墓ニ土饅頭
ナトニテ知ルベキナリ右ノ歌ハ徐武筆精ニ
アリ全文ヲ見テ細考シテ

薺七菜被和立波情發動頭稱阿式

七種ノイ注スルニ及ニ式祭正月十日也根川安路野ノ
北ニ在リ所祭蛭見太神天照太神素盞翁尊也

緊手介手越注連中到衣

一切藏經ヲ總テ遍考ル所ニ俱全頌ニ云ク夜摩天終抱成爐都史多
天但由執手樂變化天唯向冥他化自在天唯相視成爐隨彼
諸天男女膝上有童男童女欬然花生又日本神代卷三書曰
陰神使握陽神之手遂為夫婦生淡路別次蛭見トアリ是
都率ノ婿相ナリ蛭見ヲ生ト云本文ニヨリテ前編ニ阿式ノイヲ置

タ凡文法ナ釣ノカアリ右神代雜相ノ根政兼良ノ説有去文多クテ
不載

注連ノ神道ノシリクノ繩ナリ諸人祝所ナレハ不覺信多ニテハ
古ノ字ニ知者スバシ其人ヨ古傳心アリ古今奇觀ニ
賣油節古花魁娘ナトフル同事ナリ古哥ニ
秋來シハツシメシノ如藤花イノ朝露ニ又シテモツラシ

臺上裳樓上毛築波根糸手毬野表子整而音

没金姑登

トビロハ爆竹即チ左義長ナリ但音ニカケテ更去ニ為ナリ

真モノ絶ズリ運グ東路ノ瀬田ノ長ハシ音モトハロニ兼盛
柏子ノ字ニニテ表子ニ通ズ表子ハアヒカタト別ク金魁傳ニ出タリ

蒙春而與者心肝正月介巳耐免行氣更氣波 曳今洋今魍魎薪乃能布差邪

春ノ字ハ新婚要ニ檀而憐惜不忍春ト云ニ皆正月ノイ芥人知ル所

近代ノ禮也新能二月七日ヨリ十日迄也二月堂法會ニ付テ能也

摩耶方祭與上馬象介

摩耶夫人ノ釋迦如來ノ御母ナリ但シテヤ祭ノ別ノ事ナリ

祭ノ字義後ニ教メ初午ハ稻荷ノ神ヲ祭ルナリ此神ノ來歴詳ナラズ
今昔物語ニテ人因答ノ美女ヲ初午詣ニ垣間見後畧ノ哀ト云謎ヲ
悟リ本意遂シテアリ云方日出度神也

權而涅般野干雲隱流屏風乃衰且

涅般經ヲ拜スルニ佛何ゾ二月ノ中ニ涅般ニ入ヲフヤノ説ヲ奉テ曰二月ノ中ハ
春分ノ陽氣盛ニ又ニ遊宴ニ懈ル故此月涅般ニ入ヲ世ノ無常ヲ示テ也
權而涅般乃長松ト云詔雜劇ノ古曲ニ存ズ此句散樂家毛、節進帳後ニ
雲ニ隱ルハ光源氏ノイヲ涅般ニ比シ抹香ノ具ヲ花鳥ノ使ニ品セ云又季義
山ノ詩ニ雲母屏風燭影深ト云ニ叶ハ一語ノ中許多ノ指典ヲ包ム

采農彼岸夜聆心將來

彼岸ノ一語若ク智所ナリ而々實説ヤクニ籠村ノ記ハ傳書ナリ但シ醉善
提ニ唯忍ハ明年為彼岸ト云云指キ事ナレハ一聖靈會ハ廿二日也聖德
太子ノ御忌也此文ハ將來ト書キ可也將來ハ元ト在言ヨリ出テ
將來カ好アルアルニテ是ナリ近世俗語ト成テ將來ト云ハ誤レリ

輪

ハ感嘆ノ辭也一漁式物語ニサレハミテ云ハ左ト書リ一語生トハ
春盛ニノ草木ノイヨク生出ル故ニ云也一敬智ノ易成非成章利貞取
女吉又初六成其柵象曰成其柵志在外也志ノ外ナルト云ニ乘酒落
及ヒ可憎ノ趣意明ナリ一柵ノ前供三月三日也風月律來ニ柵老ノ酒宮如十
云物是也云ニテ股ノ子ニ通ズル更ニ信丹ノ妙アリ先引處ノ易成
卦九三咸其股ト云遊文ヲ暗用スル是等ノ博洽ニ可什ト稱スベシ

潮盡止言香致和乃火燼余足法蛤跡無

二月三日潮盡テ海中ニ衆ノ貝ヲ拾フ一唐土ノ文ニ見ヘタリ

歲時記ニ
今月海潮
大變泉州城ノ浦
蛤跡ニ拾テ泥中
拾テハヨクニ是
ハ是ニシテ

致和八遺卷トミニヘキカ「貝路ノ一類反ノ哥ニ

南風洲奇高祖高野三會窟也

御影也東寺高維仁和寺等三行也

知而上頭乃卯突騎空虛幾爰後來曠潤

堅執身ニ云唱家ノ境初テ人ニテフヲ上頭トニ示梳櫛トモテテリノ雲溪
友議ニ云云歳ヲ破瓜ト号シ是モ水上三回ニ古詩ニ山如西施破瓜歳又赤
繩奇縁ニ云上頭ニ次弟アリナニヲ武花十四ラ開花十五ヲ摘花ト云ナリ
曠潤ノ語部ニ似タ共又本ツク所アリ孫子カ在法曰弱如意女敵入用
テ後如脱兔ノ敵又及拒ヲ心ハ負カハ恐レ栗ヒ已ニ破身トシ人ヲ不
謂ナリ脱兔ハ破身セシカナリ又潤ノ字ハ梅生ナリ者蘇氏ハ故ニ
通セシヲ論スル在詩ニ梅須讓薛ニ分潤薛却輸梅一段長ト下
アリ是ニテ可推ナリ

釋迦毛降誕生息毛雷存乃稱毛控刺供養撞

瑣也五更鐘野比比幾波權現會

釋尊ハ摩耶夫人ノ胎ヨリ生レ玉ヲトゾ佛祖號記ニ讓ル
當麻ノ練供養年大坂紀別權現祭世ニ知ル所ナリ但ニ遊路ニ行良ニ速ノ
字宣シト云説アルモ友ニ練ノ字ハベシ詩ヲ練或ハ丹ヲ練等トナリ
「神樂歌」曰カ子ノ金ノ太カサカキテ金良ノ部ニ人ハ誰カ子ヲ此子ルモ
練ノ字ヨシト説リ桃華初曰子ハ歩ナリ「五更鐘」故事ハ鶏冠解願ニ或
婦人身ヲ舟ニ入リ狂詩アリ扁舟雖而小四面ニ茅草遠總聞五更鐘和
尚出來リト云是等ニ思フ寄ニヤ

濡天厭泥黃梅雨銀塔者賽道鏡之憾竿達天

詩ノ行露ニ厭泥ル行ノ露豈不風衣衣ノ濕ヲ厭ナリト云「日武文集」ニ
衣濕音梅雨兼行ト云「五月五日」ノ歌ハ崇道王ヨリ也今ノ藤森社是也
叔時記ニ見ヘタリ「古事談」卷之一曰稱徳天皇道鏡之陰猶兄是彼思石
以著黃作陰形今用之給之間折毫云云仍腫塞及大事之將小
手厄百辨國臣伸其手奉見云帝疾可愈夫塗油歎取之良也右
中辨百河天狐也云云「拔劍切尼扇」云云仍惡察帝崩云ノ類ノ册
證ニテ見シハ實方落馬ノ説ニ據甚正

交八千萬奇乃節供御田飛

中宮ノ風俗文會ノミト云著則集ニ小松ト云々妻愛セシモノト云松子
ト云白セテアリ遺令ノ遺訓ナレハ「吾若クハ性ニ及但縁ヲ家セシ
始ハ存原カ好シ始ハ月令ノ意ヲ見ハタリ「俗語ニ昔自水ノ子守ノ送女
徳彦ヲ送ラ因ニ性士明神ヲ祀ケ奉セリ故ニ早乙女ノ役「ト云神恩ニ
酬フ今ノ御田植ノ神事是ナリ

致三足鳥喜契羊蹄長傘以教理

致日ト云程ノアル時節ノ賞シテ云ナリ奈禮法會ヲ入々ノ自存自志也
喜契申長傘九等皆精刻燐葉ニテ新出肥州隨意ニ喜ニ此スル
因事ナリ因ニ物スルニ守官ヲ燐葉トスル非ナリ博物志ニ喜草ハ龍如ク化スル
所其花黄ニシ燐豆ノ如シ是ノ服スルハ人ニ慕ハルナリ又北ノ録ニ紅燐蝦
ヲ佩シハ人ニ媚ラシク由出タリ是等ハ燐葉ト云ヘシ又燐ノ術アリ女ノ月水ニ
生魚ヲ入レ刺ノ中ニ置時ハ各各ニ金銀ヲ不惜獨ガテ慕フ由祝元明ノ志
怪ニ著セリ又石鐘ト云物アリ大鴨ノ遺精也粟稔許ヲ含ム時ハ一夜ニ百ヲ
御スハト云是精鍊ナリ

遊年不放止任而忍得者遂林鐘亦愛凍止約

原祇花波十字蠶頭

林鐘ハ六月ノ律也藏ノ得テ奇也「愛凍明王ハ四天王寺ノ中ニテノ衆人朔日ニ
於テ敬愛ノ法會ニ参スル夥ニ祇花ノ祭礼七日ニ神輿ヲ出シ四逆藤若ナリ
此地ノ町錦山ト云洛中ノ一ノ壯觀ナリ六月ノ夜ヨリ此夜迄河原ニ納涼ノ未
ナ列ス太平ノ清事ト云ハ此御神ノ素意ヲ尊稱田原ノ神ニテ男女
赤繩ノ綴ヲ至王ノナリ一銀頭ノ喜ハ前注ニ出ス「豊雅事秘年ニ云
宵月礼致及私庭境起「存展兩眼薄薄丹ノ欲ハ此也
礼華散氣好也ト云云墳ノ子ニテ此也

雅童年輩好箇夏神樂過度為尊取挑燈將地

龍羅黃補屈底葉拳御原昆耶

夫木集三

河社シノテリハハアキハノ袖フルイモ、百夏カグラスル
挑燈行燈ノテハ創シ鑑ナリ今ノ挑灯ハ行燈下稱ハベキモ、也便蒙抄ニ
稱ニ曲詳挑灯ト云語ハ一休和尚ノ狂言集ニ稱手能、愈玉壘崩ト云
又元ノ焚檝録ニ真柳籠ト詳セハ是也「地黃翁即法及「小夜ハ万葉

佳ノ江ノ小集樂ニ由テ現ニモ己カカスヲ鏡トモツモ頓照カ云小
集樂ハ田舎ニテ圓テテ集テ遊フヲ云佳士ニハ毎年演ニテテハライト
云テ遊フ也

懸想玉章月節介觸抵野棚機嬌客毛女児音

衣乎一本作邪口挑摘乃飲可稱音頭臥房

拾遺集三年ニ夜下思ヘトセタノ相見ニ秋ノ限リナキカナ

此歌ヲ知ルベシ棚機客ヲ聲ニベカラカ無限歌ト云

音頭ノ節ニモキト云テ歌樂ノ譜ヨリ出タリ音衣ハ侍ガナリ婚家ノ
婢ハ引頭ト書ナリ

肥而臍滑志呂收太裳及通牙速捺免魄

從然草ニ久米仙人ノモノヲラフ女肥ノ口キテ見テ通テウニセウケシハ
マエトニテ足履ナドノキヨラカニ肥アツラツキタラシハ外ノ色ナラバサモ
有シカシト云云元亨釋書ニ久米仙者和州上郡人入海山号道

食松葉衣薜荔且騰空飛過故馬會婦人以足踏洗衣其脛
甚自忽生海心昂將墜落一仙人ソノ婦ニ契リテ人間ニ住
再正法ヲ修セ今昔物語ニテ今ノ人肥多ク笑ハテ其肥翁ヲ稱アリ
楊貴妃モ肥満ナリ由太真外傳ニルセノ

左堤藻憑三十方強乃氣王飛際丹輪伯母女

出月藻究突通氣見禮者去來好爽快止

聖德太子意法ヲ定メ五フ途ハ伯母弟姪相要ルヲ多ク日本紀云アリ
蝦夷ノ俗ハ今モ如此トナリ又獨異志ニ盤古王ハ兄弟夫婦ト成テ萬物ヲ
生スト云云皆上古ノイテハ今世ノ引證ニテ此義ノ動作アルバラス
食財集ニ云イサマハヤスラ心ナリ猶豫ト書イテ不知トモ書ナリ

摩多採伽駕留兩回彼岸是藻成佛得脱都生

憎其可憐乃四毛聆月

彼岸ノ一前注ニ詳ナリ菊月九月也及注一憎ヒ可愛ハ兩チ上ノ

文ヲ受テ煩悩掃盡ノ意ヲ示スルナリ曲中致ニ生憎ク生憎ク
實可憐之嬌兮ノ段ヨリ變化シ東ル一サテ此一篇ニ釋云ク
三、涅槃誕生成佛ナリ退ラ是ヲ親クニ承鏡集ニ云佛八十種好ノ
一、馬陰藏樹トアリノ謂ハ陰常ニハ藏レテ馬陰ノ如ク見ルバ
カラガレナリ法華ノ注モ又如此コ、ニ知コメ佛陰ノ馬ニ類セルト
云テ以テ此篇ニ比ミタルナリ

心逼來也泰象而為乃餞菽豕止邪祭祀已闋
者盡于一邊双幣乎斷而加美無月波

菽月九月十三日夜ナリ亭子院ノ御時ヨリ始ルノ談アリ漢ノ武帝又魏
香ヲ炷テ李夫人ニ見ヘシモ此夜ナリト云設モアリ不寢寐ノ説鈴ニ再五
ノ縁日九月十三日夜ナリト云志度家ノ集ニ
オモトイハ秋ノ半ノ月ハナク今夜モアリト思ヒナサレキ
此方ノ俗奈ト云ハ交通ノ一ナリ唐山ニハ作卷ト云ナリ照世益二次
涿山作卷ノ後眼略トアル是ナリ神無月コノ月也衆神出雲ノ
大社ニ朝メ男女ノ縁ヲ定メ玉フナリ

玄猪餅都抵年幼老成乃御令講野受足乎五
更蒙十霄蒙繼天被餞者貞成誓文竟淨也

玄猪ノ一注ニ及一御影講ハ日蓮上人ノ御忌ナリ今御令講ト書也
子夜ノイタ及注ニ誓文捕クセクモコノ社等ノ説アレモ可異ト云ヤウ高
人ノ年忌ト云ルハシ

畏少都霜津來其處餞錢物匝乃吹革祭典類
上紅潮野果然御庭燎燒

霜月八日霜荷ノ火燒ナリ一切ノ職事草ヲ用ルモ此日霜荷ヲ祭ルナリ御火後
諸社各々行クナリ十月極陰ノ後一陽來復ノ候ヲ得テ群陽出雲ノ
大社ヨリ歸リ玉フ也コレヲ陽燄ニテ迎ヘ奉ル故ニ也

卒為因而被勸宛頓四極禮止弟子痴故好樂
事濫觴

四岸ノ極ハ三月ナレハ四極ト云ナリ一二年ノ末ノ月ナレハ身見別ト云

六六... 事始子三ノリ正月ノ公事ヲ今日定メラレナリ... 詩曰嗟女無其士... 男子ハ百行アレバ一月ノ修行モ改ル期アリ... 鑑戒トシテ可ナリ

陽氣浮華野帝客古曾西也南越掃庭真翰流

賀一作ス煤取

帝客トハ風流掃地ト云誥ナリ... 煤取注ニ石皮西ノ新街ヨリ

此曲ノ青樓志ト云昔ニ精シ南トハ晴陽ノイナリ月花餘情等

抄ニ詳ナリ帝客ノ類ニツキ客アリワルキ辭ナリ万葉ニ

壯夫トモノ驛ニナリサマル心モアラシ我ツルルニ

后介能飄掌真乃簾捲幾連前分那汗穢不淨

乃

餅搗前分注云石海ノ入月ヲ謂也又鳩摩羅什ノ女人ヲ見テ

草皮ノ囊ニ血ヲ盛テナリト云フアリ西遊記ノ詩ニ毛血食塵落莫

尼年撥盡天豆乃數年禮波

今尼掃ト云モノ人ノ川ニ有テ無限ノ事ヲ説ク惡鬼ヲ撰テ平藏

沖ニ流サシト云護持ノ神代卷ニ曰素盞尊有罪故ニ諸神科首ヲ座

置テ之ヲ誦除ト云云子座ヲ置テ大罪アル人其身所持之重子品子由

卒三百六十條多一二三四

拂心ナルベシ

昂ノ教蒙ニ大極生兩儀兩儀生四象ト云又孝子道徳經ニ道生一

生ニ二生ニ三生萬物萬物負陰而抱陽トモ見ルヲ皆天地ノ道ハ

生々シテ窮ナキノ理ヲ云故ニ終極ニ此語ヲ下ニ陽春發生ノ義ニ帰ス

環ノ瑞ナキガ如ク仙衣ノ無縫ニ似テ或人難クラク三生萬物ナラハ

一二三四ヲ好ルヘシ四ヲ如クハ如何ト云曰嗚呼コレ何ノ言カ四獨

